



Title	明治維新前の北海道租税制度志要 : 北海道綜合經濟史研究過程に於ける財政的資料
Author(s)	南, 鐵藏
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 3, 133-170
Issue Date	1934-11
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/10622
Type	departmental bulletin paper
File Information	3_p133-170.pdf



明治維新前の北海道租税制度志要

北海道綜合經濟史研究過程に於ける財政的資料

南 鐵 藏

本稿を草するに當り昨夏旅行に際し江差に於て舊家増田勝太郎氏より貴重なる文献の借覽を許され以て本稿收録上負ふ所
 尠からず、其他は殆ど北海道廳北海道史編纂室御所藏のものに據る。茲に謹んで御兩者に對し深厚なる謝意を表す。

内 容 目 次

緒 言

前 篇 前松前藩直轄時代

- 一、漁業に關する税制 三頁
- 二、農業に關する税制 九頁
- 三、鑛業に關する税制 一〇頁
- 四、林業に關する税制 一四頁
- 五、工業に關する税制 一一頁
- 六、移出入貨物沖口税制 一三頁
- 七、商業に關する税制 一四頁
- 八、沖口船舶に關する税制 一四頁
- 九、旅人に關する税制 一九頁
- 十、土地に關する税制 二〇頁
- 十一、人別・五人組・門松の税制 二〇頁

後 篇 前徳川幕府直轄時代以降明治に至る迄

- 一、漁業に關する税制 二〇頁
- 二、農業に關する税制 二五頁
- 三、林業に關する税制 二五頁
- 四、工業に關する税制 二六頁
- 五、移出入貨物沖口税制 二八頁
- 六、商業に關する税制 三〇頁
- 七、沖口船舶に關する税制 三二頁
- 八、旅人に關する税制 三六頁
- 九、土地に關する税制 三七頁
- 十、人別・五人組・門松の税制 三八頁

結 言

緒 言

社會の時代的特質を最もよく表明するものは其時代に於ける社會制度である。社會生活の一たる國民經濟生活

と密接なる關係を有し、之に大なる影響を及ぼせし事を世界史が明證する租税制度は一の社會制度である。故に社會經濟史を研究する上に於ても之が經濟發展上に如何に影響を及ぼしたりやの考察を必要とするは勿論、之と同時に更に又之を通觀する事によつて當時の經濟が如何なる發展振を示してゐるか、將又如何なる事が特質となり居りしやの大體の見透しもつく本制度の考察また等閑視すべきで無いと思ふ。異境蝦夷島本島の明治維新前の住民は其大部の地を先住民族たる蝦夷が占據し、和人は僅か其南端一角の地に住したるに過ぎなかつたが、尠くも本島經濟發展の上より觀る時は此廣大なる地積の上に此種發展を成さしめたるものは蝦夷には非ずして實に惟一葦帶水たる内地より遙々本島に渡來し、内地・本島間を股にかけ一大活躍をなしたる内地人を主とし、更に加ふるに本島南角の一端に住せし和人とであつた。而も本島に於ける租税は一、二の例外は別として先づ和人のみに對して課したものであるが、以上の意味より北方日本經濟史として本島の經濟史を研究するに當りても一度は此制度を通しての考察過程に觸る可きであらうと思ふ。然し乍ら私は今本稿に於ては此考察過程を究めんとするものには無い。唯之を爲す爲の前提として此種制度に關する文献の各種部門に互りて組織せられたる事、尠くも或程度迄に沿革的概念を與へ得るに足る資料を有し、且此意味に於て排列收録せられたる事、資料に出所の記載ある事の點に於て未だ思ふ様に纏められたるものは無い。本稿は此等の點に鑑み其主要なもののみを古文書中より涉獵蒐集し、類別組織した。斯かる意味に於て幾分なりとも役立つ所あれば幸甚である。又本稿は殆んど古文書原文其儘を收録するを方針とした。動もすれば時日の經過と共に古文献の散逸するを思ふ時蓋し一片の意義なきにしも非ずであらう。

凡 例

一、記事中「御舊領」とあるは「前松前藩領」の意味で同藩直轄は天正十八年十二月より東蝦夷地は寛政十一年一月迄、和入地（松前）並に西蝦夷地は文化四年三月迄であり、「御料」とは「前徳川幕府領」の意味で其直轄は前松前藩直轄に相

次ぎ文政四年十二月迄を指し、「御復古」「御復領」又は「御本領」とは、「後松前藩領」の意味にて文政四年十二月より安政元年五月迄であり其後明治迄は再び幕府之を直轄したが「今以同様」とは安政六年の事を謂ひたるものと解す。

二、本稿は主として税の種類と税額に就き編輯し徵稅機關に就ては格別には収録せざるも然し其大略は前松前藩の漁業稅徵收機關に準據するものと見て大差ない。

三、引用書が江差沖の口の場合なれば記事の方も江差を本体とし、箱館沖の口の場合なれば箱館を本体として記録せられあるものと解す。

四、編纂法は古き事項及び一般的事項と目ざるもの程先としたり。

五、引用文献中北海道史第一・北海道拓殖の進歩・日本財政經濟史料の外は皆寫本であり、此寫本中維新前町村制度考の外は皆原本が明治維新前の記録である。尙本稿中の引用文献の外文化以來松前沖口船取扱方・沖の口諸役錢取建算法(何れも北海道廳所藏)・北海道志(卷二十・二十一)(明治十七年開拓使編)・舊箱館奉行所地方稟裁録(文久―慶應同所地方掛)(北海道廳所藏)・北海道漁業志要(明治三十年村尾元長)・拙稿「明治維新前北海道に於ける旅人の出入改め制度に就て」(昭和九・一)等に據り細末の點を補充せば便なりとす。

前 篇 ————「前」松前藩直轄時代———

一 漁業に關する稅制

(甲) 漁民に關するもの

イ 鯉(其一) 漁獲稅「寛文十年頃」「一、悉さしへにしん取に參候得は自他共に鯉七束半つゝ出候由。一、松前藏分給分共に百姓の年貢(略) 鯉取に參候得者七束つゝ出候由」。(元祿三年二月藩令寺社奉行への達)「一、祝網之儀年々請取候に不及在々網も捨候趣に付當年より網出し不及申候祝網代金壹兩宛爲取可申候右之金子毎年夏中相渡可申候町奉行下代小使の祝網は當年より相止可申候」「一、去年より米高直當春鯉場え出候百姓不足困窮故祝網の金子にて爲取百姓へ一祝網不申付令用捨候然上は相定濱役等無滞様に可納旨急度可申付候事」「一、

1) 拙稿「前」松前藩の漁業政策(農政と經濟)
2) 津輕藩 津輕一統志(十之下)(享保年間)

來春より鮭場え出候百姓共祝網鮭並番役鮭共に六束半宛納可申候先例は番役鮭一束宛之由に候得共用捨半減に申付候右之鮭高間奉行支配可仕候 附原口より福島迄の中鮭場えも不出其所にて鮭取候百姓共來春より祝網鮭六束之宛に出し可申候事³⁾。〔享保二年頃〕松前西東村々收納之品 一鮭十四丸(但一丸鮭二百本結也)右西在郷家大小に不限一軒より(略)背を取不申丸千鮭にて納め申候。一束在郷鮭少々有之依之半役と名付右十四丸半分納る。一鮭子收納無之、寄せ子と云鮭子の生の内に皮を幾つも寄能程にわらにて巻日干し餘程堅くなりたる時わらを取形をなをし角に作り候て西在郷より少々納め申候由⁴⁾。〔享保四年一月藩令〕一鮭濱役之儀(略)當春より鮭十五分一の御役被仰下候但魚屋なやに懸け商賣其時々取鮭にて御役相勤候事。一忽て賄鮭の分は御赦免、魚屋に懸け候賄鮭と商賣鮭と紛亂無之様に改人見分を可請候事。一先規より勤來候高間役鮭十四束年期役(略)御赦免。一献上數の子・寄數子・椎茸・丸太代歩金其外の小役の儀は先々より勤來候百姓より毎度の通無滞相納可申候右之通鮭濱役之義當春より御家中御内侍中・町百姓・社家・諸職人・給所の者迄惣て鮭取候者へ御役被仰付趣相觸候⁵⁾。〔元文四年頃〕百姓の業田作はせず唯鮭をとりて十五の一を以て運上とし餘分を以て衣食とす⁶⁾。〔寶曆三年〕「改めて金納となし船の大小によりて額を定む即ち圖合船金一兩・乗替船金三分・三半船及び保津船は金二分なり⁷⁾」〔明和九年五月藩令檜山への達〕「一献上數ノ子右ハ江差・上之國並給所ノ爲メ鹽吹村ヨリ熊石村迄村役ニ可申付候。一椎茸五拾但鮭船壹軒ニ付寄合有之ハ別段ニ可申付候⁸⁾。〔天明二年藩令、同上〕。一鮭取椎茸役ノ儀ハ古來鮭取壹軒ヨリ五十宛取立候得共鮭場稼方ニ最中ノ時節出產ニ候故願ニ寄リテ錢納ニ申付圖合船壹軒ヨリ七百元、乗替・三半船取壹軒ヨリ五百文、ホツチ船取ヨリ三百文宛天明二寅年ヨリ取立申候」一献上椎茸ノ儀ハ右寅年ヨリ別段村役に申付壹ツ七文宛ニ買上献上ノ分壹斗五升宛上撰ニイタシ御殘不宜分ハ領主遣用ニ相成申候右献上壹斗五升江戸屋敷ニテ吟味之處虫喰痛損モ有之候間貳斗宛爲差登候様近年申來候然共其年柄ニ寄椎茸不足候時ハ貳斗ニ都合仕兼候年々有之候⁹⁾。〔天明四年頃〕船は大船・乗替・サンバ・ホツチ・磯船とて五段あり。大船の役

3) 松前福山諸掟(明治維新前の記録) 大藏省編 日本財政經濟史料 第拾卷(大正十二年四月)

4) 徳川幕府巡見使? 松前蝦夷記(享保二年)

5) 北海道廳(河野常吉) 北海道史第一(大正九年)

6) 坂(板?) 倉源次郎 蝦夷行記(元文四年)

7) 北海道廳 北海道拓殖の進歩(明治四十年)

8) 江指兩御役所諸役御收納廉書(明治維新前)

金々一兩、磯船の錢六百文出るよしおのく差等あり⁹⁾。

前濱鯉取船扱方「一前濱鯉取ノ儀春中市在百姓共名主町代添印ニテ願出候得ハ役金取立木札相渡候事但御舊領末頃ヨリ追々漁事相絶願出ノ者無。一、前段木札相渡引續タカマ改ト唱ヒ下代壹人下役壹人召連レ罷出木札ト漁船ト引合取調若願出ノ名目ト相違ノ分ハ増金取立候事。一、金壹兩圖合船(梁六尺一七尺)同三分乘替船(五尺四寸一六尺)同貳分三半船(四尺四寸一五尺三寸)同壹分保津知船(三尺一寸一四尺三寸)錢六百文磯船(梁三尺迄)¹⁰⁾。外筆墨紙料磯船ハ錢三拾文ホツウハ五拾文餘ハ五拾文ツ、増取立申候。但役金免除ノ廉、ホツウ船壹艘ツ、東西村々名主・年寄同五艘惣問屋・小宿、同壹艘辨天通姥社人、同壹艘原哥蛭子堂通上ノ國社人一本文ホツウ磯船梁木無之船ハ表ヨリ艫迄長手ヲ三ツ折ニイタシ艫ヨリ一折ノ内五寸詰候處ニテ幅寸尺相定候。〔鯉取椎茸役・丸太分錢役〕右ハ町在百姓共鯉漁事相濟候上小役ト唱相納候(檜山番所)圖合船壹艘ニ付椎茸役錢六百文乘替船同四百五拾文・三半船同三百五拾文・ホツウ船同貳百文・丸太分錢鯉取家壹軒ヨリ錢百六拾文宛(但鯉取ノ内ニテモ役事勤候者ハ古來ヨリ右ノ小役錢差除)〔鯉取役木代〕右ハ前書同斷漁事濟ノ上松前町役所小使年々爲取立相越正木ニテ納候圖合船・乘替船取家壹軒ヨリ役木貳代錢百六拾文・三半船同壹代錢百廿文・ホツウ船同壹代錢八拾文(但三艘立ヨリ貳代百六拾文)右木錢ハ江差ヨリ熊石村マテノ百姓ヨリ取立之五勝手村ヨリ石崎村マテノ百姓ハ舊來ヨリ免除並役事小役等勤候者同斷(以上)¹¹⁾。(以上和人の和入地に於ける場合)〔元祿四年四月藩令、熊石村番所への達〕「一、追鯉船節喜内(和夷地境に在る地名)より先(蝦夷地)え通し申間鋪候」〔享保四年一月藩令〕「蝦夷地迄百姓の往來鯉取候者共も(略)十五分一の役相勤可申候事、熊石より先々追鯉に参り候船より毎度熊石番所へ差出候一束宛の役鯉等も御赦免之事」〔蝦夷地行船扱方〕(仕來、蝦夷地行鯉取免判願手續ノ儀往古ハ御城下町役所小使江差へ相越取扱ノ由)¹²⁾一、圖合船(乘組七人一八人)壹艘ニ付役金壹兩、乘替船(乘組五人ヨリ六人)同役金三分、三半船(同三人一四人)同役金貳分、ホツウ船(同貳人)

9) 立松東遊記(天明四年)新前(明治維新前)廉書
10) 江差御役所諸御收納書
11) 船指兩御役所諸御收納書
12) 江指兩御役所諸御收納書
13) 松前福山諸第一
14) 北海道史第一
江差御役所手續書

同役金壹分。¹⁵⁾「文化五辰年取調?」一早春百姓共蝦夷地エ鯨取ニ罷越候者何船何人乗ニテ蝦夷地何ト申場所エ鯨取ニ參度候間相免判被仰付被下置度旨願人其村役人之印形ニテ願書差出御役金ハ即上納ニ御座候(其節御役所ヨリノ免判村方名主エ相渡申候)右鯨取船役金(磯船の外は前記同斷)磯船取錢六百元、右ノ外鯨相濟五月ニ至候テ鯨取小役ト申者丸太夫錢役鯨取家壹軒錢百元・夫錢六拾文右丸太夫役ノ儀ハ御舊領ノ節御堀御入用木トシテ家一軒ヨリ丸太壹本ツ、正味取立ノ所明和九年前ヨリ代納尤役事相勤候モノハ免除。¹⁴⁾圖合船ニテ取申者警三半船・ホツウ船付候テモ惣テ家別壹軒ヨリ丸太錢ト申者百文・步錢ト申者六拾文都合百六拾文宛相納申候其外圖合船取之者壹軒ヨリ椎茸役七百元、三半・乗替船取之者壹軒ヨリ五百文、ホツウ船取ハ三百文宛相納候船軒ニ不拘家別ニテ取立申候尤鯨取之内ニモ役事並小頭等相勤候者右小役ハ免除ニ御座候。¹⁵⁾(以上和人の蝦夷地に於ける場合)

〔享保四年一月藩令〕「西東在々に住居候蝦夷共(略)鯨取候者共も右之通十五分一の役相勤可申候事」。(以上蝦夷の和人に於ける場合)

(其二) 鯨取旅人役 (丑(明和六年?)二月藩令、往來宿への達)「一、鯨取雇其外旅人共に是迄之通役金貳匁宛可申付候並旅人女役金壹匁宛其年々可申付子供之分は其年斗の役金有來通可申付事」。¹⁷⁾〔明和九年五月藩令、檜山奉行への達〕「當渡鯨取雇役壹人ニ付金貳匁、旅人港役同金壹匁七分、歸役同金壹匁、越年役同金貳匁但越年人歸國ノ節ハ不及歸役港役斗申付候」。¹⁸⁾〔文化度調?〕「一、早春向地ヨリ鯨取雇ニ相越候旅人―手間取役ト申壹人ノ役錢壹貫貳百文、子供女ハ半役ニテ六百文、五月本國エ歸候節相納出切手差遣候。右入人ノ内當所ニ相稼越年仕度ト申ハ五月相納候役錢ニ不拘十月十一月迄ニハ越年役ト申壹貫貳百文取立申候尤其年越年モ不致八九月頃迄相稼居本國エ歸候ハ港役壹匁七分取立申候越年イタシ候ハ前文之通取立翌年ニ至リ何時ニテモ本國へ歸候ハ港役取立申候」。¹⁸⁾(本簡旅人稅參照) (後篇鯨取旅人役)

15) 江指兩御役所諸役御收納廉書
 16) 北海道史第一
 17) 松前福山諸掟
 18) 江指兩御役所諸役御收納廉書

(其三) 南蠻賣役(南蠻賣とは北海道史第一には「鮮漁期中飲食物玩具の類を負ひ海岸に出で、生鮮と交易するを業とせし者」とあり、又舊記には「鮮漁事中當所百姓ノ内ニテモ生鮮ヲ以諸商ヒイタシ候者ヲ南蠻賣ト唱」とあり)。「明和九年五月藩令、檜山奉行への達」鮮取壹軒南蠻賣壹人ニ付歩金壹分(但鮮取寄合有之ハ別段可申付候)同南蠻賣役金子貳分。同丸太代錢百文(但前同斷)鮮取ホツチ船壹艘南蠻賣壹人ニ付椎茸役同貳百五拾文右ハ御舊領前濱鮮無之中絶仕」。

口 鮫取稅 「明和九年五月藩令、檜山奉行への達」「鮫取役船一艘ニ付砂金四匁、取鮫不足ニ候ハ、見分ノ上四匁ノ内ヨリ可致容捨候」。「藩令、龜田箱館奉行への達」「一鮫取船汐くひより下え相越候船共龜田番所より判形取可罷越候此船壹艘ニ付金貳匁並壹人ニ付油三盃宛龜田番所え納但松前より判形取候船は格別の事知り内より下在々居ながら鮫取候船役壹艘ニ付金貳匁宛之役可申付候但龜田支配の者共は前々納來り候通油役金共に可相納候事並小船半役の儀見分の上可申付候事」。

ハ 鱒取稅 「藩令、龜田箱館奉行への達」「一鱒取船之役泉澤邊より龜田迄壹艘ニ付金四匁宛之船役可申付候事」。

ニ 鱒取稅 「前同斷」「一鱒取候事在々何方にても運上差出相願可申候惣て無斷鱒場取申間鋪候事」。

ホ 海鼠曳稅 「元祿四年四月九日藩令、前海鼠曳奉行への達」「一ゑとも外海鼠引候事望候は其品聞届近所の蝦夷地之儀は少々爲引候ても不苦候尤何程引候と見届歸着候て運上を出候様可申付候事」。

ヘ 昆布取稅 「寛文十年頃」「松前藏分給分共に百姓の年貢昆布三十駄、廿五駄」。「享保二年頃」「龜田村(東在郷)收納十三駄(内半駄献上の赤昆布也)但一駄と申は長さ三尺の昆布五十枚抱四把也昆布數四百枚也古は貳十五駄宛納申候へ共松前まで船積にて收納申候ては人夫多かゝり申候故近年願元昆布と申能昆布計を村納に仕るよし、廿五駄納の時は切昆布と申元昆布の能を取り末の薄きあしき所にて外より多く赤昆布納申事は昆布出所のへに多く納め申候由」「西在郷並松前近邊より龜田濱其外一艘二艘或は家役仕候者收納一家役廿五駄外に五

19) 江指兩御役所諸役御收納廉書

20) 松前福山諸掟

21) 津輕一統志 (十之下)

拾枚献上の赤昆布也、船役一艘分五駄外に五拾枚献上の赤昆布也、但切昆布と申元昆布の能所取候跡の末昆布也家大小に不限舟大小に不限右之通松前收納藏へ納申由。西在郷には本昆布は無之細昆布と申は有之候へ共百姓勝手次第取納?運上無之(以上)。(明和九年五月藩令、檜山奉行への達)「船壹艘に付昆布役砂金二匁。近年村役に願候、昆布不足の年は以來も右之通可申付候」(龜田箱館奉行への達)「一灘追昆布本濱役東在喜古内より汐くひまで昆布取候船役壹艘に付金四匁、但小船は金貳匁、龜田支配百姓毎度其所に居ながら役相勤候者は船壹艘に付金貳匁宛可申付候、汐くひより下(蝦夷地の方)まで昆布取候事松前は無斷取中間鋪候事、一汐くひより下え昆布取に相越候者共本昆布四駄宛人別の役右書出候役金貳匁之代り相納候事、一しのり濱の内にて昆布取候者共にしのり昆布七駄宛相納候事、一龜田百姓やけないにて昆布(取?)候者共役金貳匁の代りやけない昆布拾貳駄相納候事」(昆布は土地により一定せずと雖も多くは濱役七駄又は四駄、家役十三駄半とす。貧困にして家役を納むる能はざるものは調査の上斟酌)。

ト其他の漁民税〔寛文十年頃〕「松前藏分給分共に百姓の年貢(略)薪高サ廣サ五六尺(尙此外鮮・昆布等を徴收するは已に掲し如し)」

〔享保二年頃〕「松前西東郷百姓鮮昆布薪等取之候て收納仕ル由、一薪雜木長二尺七八寸幅七尺高五尺西東在郷家大小不限一軒より收納申よし但木かぶ或は悪き木は右の?倍又は其節の了簡に仕由」。

古百姓共ヨリ領主焚用ノ薪・遣用ノ昆布・中間料三品役三役ト唱中古ヨリ錢納ニ相成、右取立トシテ松前町役所小使年々當所エ罷越相納候(以下各村納高省略)。

村々薪役錢 右ハ兩(西?) 在ニ於テ焚用ノ薪役錢一年々檜山番所ニテ取立候(以下各村納高省略) 村々卯時錢 諸役人ノ通行ハ三役必ス村端迄送迎ス松前藩治ノ時藩用ニ

テ役人通行スレハ御用宿ヲナス家人不足ノ事多シ故ニ之ヲ補助スルハ村中順番ニテ通行役人以下人員ノ多少ニヨリ割當炊夫補助トシテ止宿所ニ出ス之ヲ卯時役(朝卯刻ヨリ出スガ故此名アリ)ト稱ス以上松前江差地方松前

藩ノ時ノ例ナリ」〔右ハ泊村外拾ヶ村(三ツ谷・小茂内・泊川・相沼内・乙部・伏木戸・田澤・目名・突符・蚊柱)。

22) 松前蝦夷記

23) 北海道拓殖の進歩

24) 津輕一統志 (十之下)

25) 松前蝦夷記

26) 村尾元長 維新前町村制度考 (明治十七年)

村々昆布役錢 右ハ兩在ニ於テ夏中取揚候昆布役年々檜山番所ニテ取立（各村納高省略）。²⁷⁾

(乙) 場所請負人に關するもの

〔享保二年頃〕「蝦夷地の内六十一ヶ所家中給分代に渡し置場所所有之……商人船に運上を取り其場所相渡し申も有之」
「蝦夷地の商場所により一艘より金貳百兩三百兩四五百兩納申候」。²⁷⁾「領内の産物魚油類自分家内賄の入用たけ租税として取揚る是を指荷といふ」。²⁸⁾「鮭漁有之に付運上増被仰付」
「茲ともと申所請負年季九ヶ年有之處是又年來商賣爲ニ冥加ニ差上」。²⁹⁾

二 農業に關する税制

〔享保二年頃〕「蝦夷松前一圓領主仕候へ共田地一切無之故鄉村高無御座由。東郷龜田村より畑多所中へ馬大豆年々六十俵七十俵斗收納申よし」
「松前西東の地にて（略）所々畑作有之百姓勝手次第作り取よし年貢納り申候は龜田村馬大豆斗也」。³⁰⁾〔明和九年五月藩令、檜山奉行への達〕
「畑役一錢九拾文一十七間三尺四方、此坪數三百坪。不作ノ年ハ見分ノ上右九拾文ノ内ニテ可致容捨候（各村納高省略）」。³¹⁾〔寛政二年記〕
「五ヶ年ニ一度宛モ領主ヨリ檢地アリテ棹ヲ打チ地所改メアリテ年貢ノ取箇定ルト云ヘリ、檢地ノ度毎ニ地所ノ反別等モ増減アリト云ヘリ、大野村邊ノ畑ハ一坪ニ付鏹二文宛一反ニ付六百文ナリ一ヶ村ノ一年ノ租稅凡ソ鏹十五貫文位ナリ」。³²⁾「畑の租稅は一反歩に付一箇年鏹九十文とし之を脚役と稱す又穀菽を以て納むるものあり數年毎に領主より檢地あり棹を打ち反別を調査せるも其反別は常に異動あり殊に漁業の豊凶に由りて多少の差を生ず彼の天明後江差地方鮭凶漁の際の如きは農業をなすもの多かりき」。³³⁾（以上和人の和人地の場合）

〔寶永七年頃〕「松前近邊に有之候蝦夷人は松前家より領地の内割渡し有之候尤其蝦夷人島作少々致し候へども年貢などは納不申候鮭を取役、昆布取る役、薪取役斗相勤申候」³⁴⁾（以上和夷境地附近蝦夷の場合）

27) 松前夷記
28) 最上德屋舊記
29) 飛彈屋舊記
30) 松前蝦夷記
31) 江指兩御役所諸役御收納廉書
32) 蝦夷草紙
33) 北海道拓殖の進歩
34) 蝦夷記

三 鑛業に關する稅制

〔元文三・四年頃〕「砂金を取る運上領主へ獻する所一箇月一人まへ砂金一匁づゝなり（略）（その集る日は役所に澁紙四五枚しきて砂金を取集めしむる内には山の如く集りけるとなり。御領主へ納る所の砂金は三十歩の一にして此砂金一國の利となることあけて言ふべからず」³⁵⁾〔天明三年より四年間〕「惠山硫黃毎年運上金三十五兩但天明三年は願の上二十兩」³⁶⁾

四 林業に關する稅制

〔享保二年頃〕「杣一人年中銀二匁（一匁は八十四文）右他國より來候杣、地の杣役同前也」³⁷⁾〔文化度辰（五）年其筋へ取調被仰付差上候書類か〕「厚澤部・上國兩山にて薪伐出候ハ其時々御役所へ願出免判申請薪川流土場着ノ節相改出張六尺ニ壹丈ヲ壹敷トイタシ壹敷ヨリ役金三分宛古來ヨリ取立來リ候得共近年番所焚用木モ買上候ニ付右壹敷ヨリ八樽宛取立申候依之厚澤部ヨリ上ノ國迄ハ川流木役相納候故外ニ村役ニハ不申付候木ノ子村ヨリ石崎村乙部村ヨリ熊石村迄ハ流木役無之間村役可申付尤石崎村乙部村ニケ所ノ川所ニテ村焚用ノ外少々賣木モ有之候ニ付外村方ヨリハ過ニ役金申付秋中取立申候」〔厚澤部上之國川流薪役並馬付薪役右ハ一壹敷之數中切八拾樽ト定十分一役壹敷ニ付八樽ヅ、³⁸⁾〕「セタナイ冥加金一石崎村ヨリ熊石村迄ノ百姓渡爲手當先年ヨリ伐出差免來一三ヶ年宛ノ年限切替一御舊領ノ節石爲冥加金貳拾五兩椶角尺ノ貳百本別段檜山下代並出役ノ手代エ届金九兩右之通差出來候」（以上百姓）「山師共杣入之儀ハ厚澤部上之國共ニ留山七ヶ所ノ外ハ檜雜木共ニ勝手次第ニ杣入、右杣人數名前等致書上役金杣壹人ニ付砂金三匁三分宛、伐出材木翌年土場着之石數千石目ニ付冥加金拾兩宛、材木伐出之節ハ積船ヨリ百石目ニ付山砂金四匁五分、貳分口錢ハ惣テノ賣高ニテ山師ヨリ相納候間尺船ノ外船手用

35) 坂倉源次郎 北海隨筆（元文三・四年）

36) 天明四年御收納取立目錄

37) 松前蝦夷記

38) 江指兩御役所諸役御收納廉書

木ニ積入候ハ買人山師兩方ヨリ願書差出櫓積ト申名目ニテ十分一役ニテ差免シ來候尤百石目録ニテハ半間尺ニ申付候」（期節を限らず運上金を徴して山師に伐採を許せる山をいふ）ノ義ハ稼方杣壹人ヨリ役金山砂金三匁三分宛相納年々伐出高檜雜木共ニ千石目ヨリ金拾兩宛ノ冥加相納」（不斷取扱候諸書付）一陪山山師杣役壹人ニ付山砂金三匁三分右者山砂金壹兩五匁二分ツカイ端金ハ兩替時相場ニテ當時六匁八百文ニ候間壹匁ハ百三拾文七分六厘九毛」（一留山七ヶ所之儀ハ誰ニテモ運上ニ願候時ハ其山ノ木柄員數凡見積ニテ一ヶ年ニ伐出何千石目、年限何ヶ年ニテ高何萬石目、運上金何千石目ニ付何拾兩、年季中何萬石目ノ運上金何百兩ノ内此度御證文引替ニ何拾兩相納殘何百何拾兩ハ一ヶ年ニ何百何拾兩宛何月中ニ相納年季中ニ皆納可仕様大丈夫成金主申立連印ニテ願書差出若年季中ニ定ノ石高ヨリ餘分伐出候ハ、終年ニ右運上金割合ヲ以相納又ハ不都合ニヨリ定ノ石數丈伐出不申共御苦勞筋願出申間敷願出候テ御評議ノ上願ノ通被仰付候節ハ御役所ヨリ山御渡ノ御證文並條目等御渡被成山師ヨリハ請書爲差出申候」「運上ニテ近頃伐跡之山ハ木柄モ不宜候ニ付願人有之候ヲモ運上金ハ新山ヨリ三四分位モ下直ニ願出申候」

〔械家木十分一役〕 檜山七ヶ所ノ外木ハ檜松榎桂梅シコロ朴右七木之外一正式ノ直段付有之右直段ヲ以取立一權伐出願ノ義モ一艘械壹枚ニ付五拾文八尺械壹枚ニ付八文ツ、十分一取立一但諸士・寺社家木一古來ヨリ免除」〔炭竈役炭代〕 右ハ炭竈壹ヶ所ニ付役炭目形三拾六貫目ヅ、御舊領之節ヨリ取立」（以上杣・山師）³⁹⁾〔寶永七年の記〕

「山も誰と申て主の究もなく材木など入用次第に心に任せて伐採り地頭へも上げ商物にも致候」（松前近邊の蝦夷の例）³⁹⁾

五 工業に關する税制

〔享保二年頃〕「大工他國より稼來候者年中七日宛役をつとめ申由」⁴⁰⁾。〔明和九年六月藩令・檜山奉行への達〕「自他

39) 蝦夷記
40) 松前蝦夷記

諸職人役

壹人ニ付壹匁二分。旅職人當渡之節ハ壹人ヨリ二匁宛取立申候。「諸職人役錢 右職人役錢之義ハ自

他ノ者ニ不拘都テ壹人ニ付職役七百貳拾文ヅ、取立尤旅人ノ職人年歸ノ者ハ壹人ニ付役錢壹貫貳百匁ヅ、取立出切手相渡。鍛冶風廂役 壹軒ニ付二匁、鍛冶頭之者ハ風廂役壹ヶ所差免置申候。「明和九年五月藩令・檜山奉行

ヘノ達」家木繩造船材木揖其外舟具總テ諸用材木杓取役 拾分一（尤檜松椴セン桂朴シコロノ七木ハ江差山師並運上山ノ外ハ不相成候）。櫓帆杓杓取役 拾分一。辨財船造役 百石ニ付山砂金五匁二分。櫓造役壹尋ニ付同

壹分五厘。帆船造役 同同壹分三厘。楫造役 同同貳分。中遣船材木杓取並造役共 壹艘ニ付通用砂金五匁四分。ヌア、舟材木杓取並造役共 同同三匁。三半船材木杓取並造役共 同同貳匁。ムタマ（無柵とも云ふ）杓取役 同同五分（壹人一艘ニ可限）。磯船ムタマ杓取役 同同三分（同上）。同六月藩令「櫓（七尋一九尋）山取役尋

ニ付壹分四厘八毛、（十尋一十二尋）同上貳分八毛・（十三尋一十四尋）同上二分八厘、（十五尋一十六尋）同上三分四厘七毛、（十七尋一十八尋）同上四分五厘九毛。帆船（五尋一六尋）役金尋ニ付二厘六毛、（七尋一九尋）

同上三厘七毛、（十尋一十二尋）同上三厘九毛、（十二尋一十四尋）同上六厘五毛。「當所ニテ辨財船造船之節皆具伐出願候而致合船候ハ皆貝杓取役百石目ニ付山砂金拾五匁六分造船役山砂金五匁二分宛取立候尤山師ヨリ買材

木ニテ造船致候ハ皆貝杓取役ハ無之造船設計取立申候。「一、造船ニテ材木積入候ニハ間尺役金半役ハ免除」。

「一、蝦夷地場所運上願請負ノ者其所ニ於テ造船並家木等伐出候共當御役所ヘ願出御免判申請候ハ古來ヨリノ定法 然上ハ造船・家木共土揚着ノ節當御役所ヨリ改人被差遣役金取立申候。「一、合船役錢 右ハ厚澤邊上ノ國

山西蝦夷地場所々並村々ニ於テ材木切出合船願ハ當所檜山七ヶ山ノ外木ハ檜ノ外何木ニテモ伐出方差免尤厚澤邊上ノ國山伐出ノ分ハ土揚着改ノ上極印入候尙合船出來ノ上改之元願ヨリ寸尺相増候得ハ増役錢取立極印入申候村々ニテ伐出合船ノ分ハ出來ノ上改手續前同斷西蝦夷地場所々ニテ合船ノ分ハ漁業濟ノ上當方へ乘廻シ改方同斷又

右場所ヘ圍置候分ハ其所ノ支配人ヨリ合船出來寸尺書付持參ノ上木札相渡申候尙又九尺六寸ヨリ以上ノ船ハ辨財

船ノ役割合テ以取立古來ヨリ檜山番所取扱分一磯船・ホツウ船皆貝袖取扱役(但磯船梁木三尺以下、ホツウ船梁木四尺三寸マデ)錢六百元。三半船同斷(但四尺四寸ヨリ五尺三寸迄)錢壹貫貳百元。圖合船同斷(但六尺一寸ヨリ七尺迄)錢壹貫八百文。中遣船同斷(但七尺一寸ヨリ八尺五寸迄)錢參貫貳百四拾文。大中遣船同斷(但八尺六寸ヨリ九尺五寸迄)錢四貫參百貳拾文。「御舊領ノ砌新規合船材木積船冥加錢ト唱候分」三人乗ヨリ錢貳百文ハ奉行加番エ錢六拾六文ハ下代一人へ・三拾文ハ手代壹人エ、四人乗ヨリ三百文・八拾文・四十文、五人乗ヨリ四百文・百文・五十文、六人乗ヨリ五百文・百貳拾文・六拾文、七人乗ヨリ六百文・百四拾文・七拾文八人乗ヨリ七百元・百六拾文・八拾文、九人乗ヨリ八百文・貳百文・百文、拾人乗ヨリ拾三人乗迄壹貫文・貳百五拾文・百五拾文、拾四人乗以上ハ壹貫五百文・三百貳拾文・貳百文。⁴¹⁾(以上)

六 移出入貨物沖の口税制

〔享保五年二月〕「入酒出油御役金享保五子ノ二月晦日初而被仰出候壹樽ニ付金三分宛上納(寶曆四年四月藩令)〔寶曆四年藩令〕「一、船手積下荷物何ニ不審其時ノ相場有體ニ申立御口錢上納可申事注文物ハ買値段ヲ以御口錢上納可申事米穀酒たはこ刻物ハ當地之相場次第御口錢上納可申事」。⁴²⁾〔天明五年〕長崎俵物口錢長崎口錢先年貳分ニ有之候所御家人皆川沖左工門殿被下候節御沙汰ノ上ニテ以後三分ヅ、相究申候天明五巳年ニ被仰付候」。「長崎俵物會所三分口錢」右ハ長崎俵物年々松前エ積廻候砌積入候以前ニ俵物會所ヨリ申出沖ノ口掛罷越俵物貫目等相改帳面ニ記置爲改申候尤口錢取立ノ儀ハ金壹兩ニ付煎海鼠廿四斤、金壹兩ニ付白干鮑大ノ分四拾斤、小ノ分八拾斤 右定直段ヲ以錢百文ニ付三文ヅ、口錢年々取立申候松前廻リ運賃ノ義ハ右口錢ノ高ヨリ引落差引上納仕候⁴¹⁾。「一、積出荷物之儀ハ不殘御口錢並ニ扇金請取可申事。一積出荷物之内餅・細布・わかめ・頭卷・えさし昆布問屋支配頼有之候節ハ買口錢四歩直質積出候節ハ扇金壹歩之定。一、蝦夷地積登リ荷物御斷之内ヨリ荷取入

41) 江指兩御役所諸役御收納廉書

候分引残り荷物揚置船本ニテ直拂被成候共不殘口錢貳分⁴²⁾之定。一、夷地積登荷物法用ニテ積出候節ハ本船ハ御斷ノ表ニテ扇金壹步法用積ノ船宿ニテハ法用ノ荷物引殘荷物ヨリ御口錢並扇金モ貳分宛荷主ヨリ請取申定、法用口錢ハ船頭ヨリ受取申定、法用荷物受取高ヨリ三步ヅ、是モ船頭ヨリ受取申定。一、荷取船ノ外運賃船出物之儀ハ荷物ヨリ御口錢並扇金貳步受取尤船頭ヨリ運賃金ヨリ三分ノ定。一、當潤入船荷積着ニテ江差箱館へ廻リ申節ハ扇金請取申間敷候⁴³⁾。

七 商業に關する税制

〔享保二年頃〕「松前町並在々役金收納⁴³⁾一、糸物・木綿・小間物類其外金高ノ商賣人運上砂金四匁。一、荒物並金安ノ物ノ商賣人運上砂金二匁」。市中諸役商賣⁴⁴⁾右ハ御舊領ノ節年々六月中檜山番所ヨリ手代差出自他諸商人ハ不申及商イタシ候者迄モ店前見分ノ上分限ニ應ジ店役申付尤店役金之儀ハ棒役錢三百文、豆腐役錢六百文、糶役錢壹貫五百文、店役ハ錢六百文ヨリ段々壹貫九百貳拾文マデニ申付、佐渡・越後商人ハ年々夏中當所ニ店借ニテ家堂軒ニ三人又ハ五六人組合商イタシ罷在候者ハ商ヒ物ノ多少ニ寄組合ノ家堂軒ニ付役錢壹貫貳百文ヨリ貳貫四百文位マデニ申付取立來候⁴⁴⁾「抱子役」一人六百文ツ、十二月收入^{半屋普請料ニ充ツ}「質座冥加金」右之内上林屋甚四郎ト申者質座役金貳兩ハ年々檜山番所へ相納、岸田屋市三郎・鍵屋九郎左工門・乙部村清九郎右之者壹人ニ付質座役金五兩ツ、年々松前町役所へ相納候⁴⁵⁾。

八 沖の口船舶に關する税制

參考 (永正十一年)「從諸州來令兩船旅人出年俸、上^ル過半^ヲ於檜山^ニ、則相^ニ定紺^ノ備後^ノ、廣長^ヲ於役取人^ニ」 (天文十九年)「季廣(略)召^ニ寄勢田内之波志多大^一居^ニ置上之國天河之郡内^ニ而爲^ニ夷尹^一。亦以^ニ志利内之知將多大^一爲^ニ東夷尹^一

夷狄之商船往還之法度定。故令諸國來商賣出年俸配二分其内^ニ而養^ニ兩酋長^一謂^ニ之夷役^一 (以上藩社時代)

42) 寛政十年沖口諸御役控並問屋儀定控

43) 松前蝦夷記

44) 江指兩御役所諸役御收納廉書

45) 松前景廣 新羅之記錄 (正保三年)

〔寛文十年頃〕「松前船ノ者役儀面役ハ砂金一匁七分五厘又年取役(越年役)金壹兩ヅ、土船(本島民の持船)役ハ一艘ニ付砂金一匁八分五厘・米四斗八升入六俵、二番船ハ米壹俵金九分宛。津輕南部ノ船渡ハ一人ニ付テ鹽十貫入一俵ヅ、但是ハ其度々ノ由」。⁴⁶⁾〔享保二年頃〕「松前並西東ノ在郷え從諸國來商賣致シ候船役金無之米鹽ノ類ヲ以テ役納申候大船小船共水主ノ人數ニテ改、三人乗以上水主一人前ヨリ米二斗四升、三人乗以下水主一人前ヨリ鹽二斗四升、右年々度々入船ノ時ハ二度目ヨリハ半役ト名付右ノ品半分ヅ、納」。⁴⁷⁾「船御役ハ鹽御役一人ニ付金八分宛外ニ金貳分常燈金三十文棒杭錢百貳文出船御判錢百貳拾八文荷賃掛入目錢共ニ・右御判錢沖口納ハ餘ハ町御役所納ニ成ル、右ハ二人乗ヨリ五人乗迄、六人乗以上鹽御役一人ニ付金八分宛外ニ金三分常燈錢・六拾文棒杭錢百貳文出帆御判錢・百九拾文荷賃掛入目錢共ニ。右鹽役ノ船地船南部船津輕船ニ限り申候尤上下在へ廻リ申時米御役上納之事。穀役二人乗ヨリ五人乗迄一人ニ付米貳斗四升ヅ、外ニ貳升四合御藏上納升へリ合テ貳斗六升四合六人乗以上本役船壹艘ニ付米貳石七斗貳升宛外ニ貳斗七升貳合御藏升へリ。二番船御役穀役御役米四斗八升外ニ御藏上納升へリ四升八合。右御役米上納丁持賃六ツ入壹俵ニ付錢四十文宛受取。米御役外ニ當潤入船御役錢二人乗錢四百廿文、荷賃掛入目錢共ニ同百廿八文、常燈金同百廿文、棒杭錢同三十文、出船御判錢同(百?)貳文御役米丁持船同四十四文。三人乗御役錢六百文荷賃掛入目錢共ニ百廿八文、常燈金百廿文棒杭錢卅文、出船御判錢百貳文、御役米丁持錢六十六文。四人乗錢七百八拾文、外御役右ニ同、丁持錢八十八文。五人乗同九百六拾文、外御役右同斷、丁持錢百參拾貳文。右二人乗ヨリ五人乗迄上下毎ニ右御役上納。六人乗錢壹貫八拾文、外ニ荷賃掛入目錢共ニ百九拾文、常燈錢百八拾文、棒杭錢六拾文、出船御判錢百貳文、丁持錢貳百廿七文。七人乗ハ八人乗御役同壹貫四百四拾文外御役右同斷。九人乗ハ十二人乗御役同壹貫八百文外ニ右同斷ニ納候丁持錢共ニ同様。十三人乗ハ十六人乗御役同貳貫百六十文外御役右同斷納候。二番下リ御役五百四十文外ニ右同斷丁持錢無之。⁴⁸⁾

上下蝦夷地下リ船 辨財船一艘ニ付百八十文ヅ、下リ之節夷地御判引替ニ町御役へ上納申候。⁵⁰⁾ 江指箱館上下在

46) 津輕一統志 (十之下)
 47) 松前蝦夷記
 48) 寛政十年沖口諸御役控並問屋儀定控

々願船之御役米役之外 二人乗錢四百六十文外ニ荷賃掛入目錢共二百廿八文、常燈金百廿文、宿造用壹貫貳百文、手代之取リ三百文。三人乗錢六百六拾文外ニ右同斷。四人乘同八百六拾文外ニ右同斷。五人乘同壹貫六拾文外ニ同斷。六人乘同壹貫貳百六拾文外ニ荷賃掛入目錢共二百九拾文、常燈金百八十文、丁持錢貳百廿七文、宿造用壹貫八百文、手代之取三百文一右六人乘ヨリ拾人乘迄宿雜用錢壹貫五百文宛、十一人乘ヨリ以上ハ壹貫八百文宛受取定。七—八人乘壹貫五百八拾文、荷賃掛入目共二百九十文、常燈錢百八十文、宿雜用壹貫五百文。手代之取三百文、丁持錢貳百廿七文。九—十人乘御役壹貫九百八十文、外ニ納右同斷十一—十二人乘御役壹貫九百八十文、宿雜用壹貫八百文。十三—十六人乘御役貳貫四百三十文、外ニ右同斷。二番御役六人乘以上錢六百文外ニ荷賃掛入百九十文、常燈金百八十文、宿雜用壹貫八百文一右六人乘ヨリ十人乘迄宿雜用壹貫五百文、十一人乘以上壹貫八百文ヅ、手代ハ右同様。〔北國舟入役〕御役米九—十二人乘三石五斗貳升但シ御藏上納升ヘリ共、貳反役錢壹貫八百文、荷賃掛入百九拾貳文、常燈金百八十文、棒杭金六十文、出船判錢百貳文、外ニ六ツ入壹俵ニ付丁持錢四十文ヅ、。十三—十六人乘四石四升八合御藏納升ヘリ共ニ、三反役錢貳貫百六拾文、荷賃掛入百九拾貳文、常燈金百八拾文棒杭錢六十文、出船御判錢百貳文。十七人—二十人乘御藏納升ヘリ共ニ同四石五斗七升六合、外ニ右同斷納。二番御役穀役ハ常澗入船同斷御藏納リ升ヘリ共ニ同五斗貳升八合、外ニ御役錢六百三十文、荷賃掛入百九拾貳文、常燈金百八拾文、棒杭錢六十文、出船御判錢百貳文。貳反役（九人—十二人乘）壹貫九百八十文、外ニ荷賃掛入百九拾貳文、常燈金百八十文、宿造用壹貫八百文、手代ノ取三百文、外ニ丁持錢前ノ通り有リ。三反役十三—十六人乘貳貫八十文、外ハ右同斷。四反役十七—二十人乘同貳貫七百七拾文、外ニ右同斷。同船二番下リ御役穀役ハ常澗二番ト同。御役錢同七百文、外ニ荷賃掛入百九十貳文、常燈金百八十文宿造用壹貫八百文、手代ノ取三百文。

上下在々直走御判錢⁴⁵⁾

	(二人乗)	(三人乗)	(四人乗)	(五人乗)	(六人乗)	(七人乗)	(八人乗)	(九人乗)
	(四百卅文)	(六百卅文)	(八百卅文)	(一貫卅文)	(一貫三百卅文)	(一貫四百卅文)	(一貫六百卅文)	(一貫八百卅文)
御判錢	百二文	百二文	百二文	百二文	百二文	百二文	百二文	百二文
掛へり	二十文	三十文	四十文	五十文	六十文	七十文	八十文	九十文
目錢	五文	七文	九文	十一文	十三文	十五文	十七文	十九文
	(十人乗)	(十一人乗)	(十二人乗)	(十三人乗)	(十四人乗)	(十五人乗)	(十六人乗)	
	(二貫卅文)	(三貫三百卅文)	(三貫四百卅文)	(三貫六百卅文)	(三貫八百卅文)	(三貫卅文)	(四貫卅文)	
御判錢	百二文	百二文	百二文	百二文	百二文	百二文	百二文	百二文
掛へり	百文	百十文	百廿文	百卅文	百卅文	百四十文	百五十文	百六十文
目錢	廿一文	廿三文	廿五文	廿七文	廿九文	卅一文	卅三文	

北國直走御判錢⁴³⁾

	(二反役)	(三反役)	(四反役)	(北國二番船)
	(二貫九百全文)	(三貫三百全文)	(三貫七百半文)	(六百全文)
御判錢	百二文	百二文	百二文	百二文
掛へり	九十五文	百十五文	百卅五文	三十文
目錢	廿文	廿四文	廿八文	七文

〔面役御判錢〕片商ニテ出荷物積下申候十日過候節ハ入船ニ成。水主一人ニ付金五分宛外ニ目録三文添御判錢百貳文(一艘ニ付)。棒杭錢大船ヨリ六拾文小船ヨリ三十文。常燈錢大船ヨリ百八十文小船ヨリ百廿文。掛入目錢共ニ大船ヨリ六十六文小船ヨリ四十文。(六人乗以上ハ大船・五人乗以下ハ小船⁴⁶⁾)。

〔材木積船役〕〔明和九年五月藩令。檜山奉行ヘノ達〕「北國船カマス船材木百石ニ付山砂金七匁。羽ヶ瀬船同貳百石積ヨリ以上ハ百石ニ付同六匁。同船同貳百石積ヨリ以下百石ニ付同四匁五分。間瀬船木附船同百石ニ付同六匁。寛政十年同上」〔寛政十年同上〕「羽ヶ瀬船材木積貳百石ヨリ以上ハ百石ニ付山砂金

49) 江指兩御役所諸役御收納廉書

六匁、貳百石積ヨリ以下ハ百石ニ付山砂金四匁五分。間瀬船・木附船・貳成船同百石ニ付同六匁。辨財船同百石ニ付同四匁五分⁵⁰⁾。「辨財船材木百石積山砂金三拾四匁七分五厘外杣取禮金壹兩ニ付五匁二分（一匁ニ付八拾壹文）、貳百石積同四十七匁壹分二厘八毛、三百石積同七拾五匁壹分九厘三毛、四百石積同九拾六匁貳分七厘八毛五百石積同百六拾四匁七分五厘七毛、六百石積同貳百廿九匁六厘、七百石積同貳百六拾九匁二分八厘八毛、八百石積同貳百八拾三匁三厘二毛、九百石積同三百拾匁九分六厘二毛、千石積同四百拾二匁四分七厘、千百石積ヨリ以上ハ千石積ノ以割合可申付候」。「辨財櫓積材木檜寸甫檜寸甫檜代 右ハ鯨積入候船材木積入候ヲ櫓積ト唱才數七十二才ニ付錢拾貳文ヅ、取立檜寸甫一挺ニ付同斷、檜寸甫壹挺ニ付錢八文ヅ、取立申候御舊領ノ初檜山番所奉行加番手代へ割合被下候」（以上）

鯨積船役 「明和九年五月藩令。檜山奉行へノ達」。「二人乗鯨積船域下港役米四斗八升錢四百六拾文（二人乗ノ内ニテモ格別ノ小舟ハ米役可爲半減）。三人乗右同斷、米七斗二升、錢六百六拾文。四人乗右同斷、米九斗六升、錢八百六拾文。五人乗右同斷、米壹石貳升、錢壹貫六拾文（右ハ何番ニテモ同様）。六人乗ヨリ十六人乗迄右同斷、米貳石七斗二升但十七人乗ヨリ以上ハ十六人乗ノ以割合可申付候。六人乗右同斷、錢壹貫貳百六拾文。七人乗ヨリ八人乗迄右同斷、錢壹貫五百八拾文。九人乗十二人乗迄右同斷、同壹貫九百八拾文。十三人ヨリ十六人乗迄右同斷、同貳貫四百三拾文。但十七人乗ヨリ以上ハ十六人乗ノ以割合可申付候。貳番 六人乗ヨリ以上米四斗八升錢六百文。三番 三至リ壹番ノ役ノ通、九人乗ヨリ十二人乗迄北國船二反役ニテ城下港役米三石二斗錢壹貫九百八拾文、十三人ヨリ十六人乗迄同船三反役ニテ右同斷米五石七升錢貳貫三百八拾文。十七人ヨリ二十人乗迄同船四反役ニテ右同斷、米四石壹斗六升錢二貫七百七拾文」⁵¹⁾

註 素間尺乘人數定左之通百石ヨリ百五十石迄二人乗、百六十石ヨリ二百五十石迄三人乗、二百六十石ヨリ三百五十石迄四人乗、三百六十石ヨリ四百五十石迄五人乗、四百六十石ヨリ五百五十石迄六人乗、五百六十石ヨリ六百五十石迄七人乗、

50) 寛政十年沖口諸御役控並問屋儀定控
51) 寛政十年沖口諸御役控並問屋儀定控

六百六十石ヨリ七百五十石迄八人乗、七百六十石ヨリ八百五十石迄九人乗、八百六十石ヨリ九百五十石迄十人乗、九百六十石ヨリ千五十石迄十一人乗、千六十石ヨリ千二百石迄十二人乗、千三百石十三人乗、千四百石十四人乗、千五百石十五人乗、千六百石十六人乗。

右間尺改方ハ長ハ車立ヨリ飛車迄、横ハ腰當ノ船梁中墨ノ所ニテ、深サハ右中墨ヨリ船底迄、尺拔相當算法ハ右掛合ノ上打詰何百何十石ト成。右ノ内ニ割道具引用拵正味石何百何十石ノ所ニテ乗合相極、乗人數定ハ四十石ヨリ七十石迄小天當二人乗旅船ハ小天當、地船ハ中遣・大中遣ト唱申候。七十石ヨリ九十石迄大天當二人乗自他共唱、同斷百石ヨリ百五十石迄辨財三人乗、二百二十石迄四人乗、三百十石迄五人乗、四百石迄六人乗、四百九十石迄七人乗、五百八十石迄八人乗、六百五十石迄九人乗、七百五十石迄十人乗、八百五十石迄十一人乗、九百二十石迄十二人乗千石迄十三人乗、十四人ヨリ以上ハ十三人乗割合ヲ以申付來候。⁵²⁾

九 旅人ニ關スル稅制

〔天明四年頃〕「立歸ノモノ役錢トテ鳥目四百文ホド出ス、土地ニテ稼ギ越年ナドスルハ一人一貫二百匁ホド出スナリ」。⁵³⁾〔寛政二年頃〕「松前地ニ越年スル者アレバ改メテ越年役ト云ヒ課役總一貫二百文ヲ出サス、又正月ヨ

リ五月迄蝦夷地松前地ニ稼ギ居レル者ハ半役トテ總六百文ノ課役ヲ出サスルナリ」⁵⁴⁾

「旅人役錢―右ハ入船ノ節水揚ノ旅人沖ノ口ニテ壹人別ニ相改候引請ノ間屋旅人宿ヘ引渡、引請書取之引請人モ無之稼方ノ目當モ無之者ハ間屋ヘ預置其船ニテ直ニ歸帆申付差戻シノ積(略)佐渡・越後ノ者年々三月四月頃ヨリ商稼方ニ相越其年中歸國ノ者ハ港役錢ヘ戻役錢差加取立申候右ノ内松前ヘ相渡同所ニテ役錢相濟沖ノ口ヨリ切手持參夏中相稼候者歸國ノ節ハ戻役而已取立申候尤立歸又ハ病氣ニテ滞留イタシ候者其外日數相立不申稼方モ不致松前ヘ相歸候者ハ戻役不取立持參ノ切手エ裏書相渡申候右ノ内越年致候者ハ前文ノ役錢不取立越年役取立申候右役錢取立方御舊領御領中・御本領共左之通當渡役錢壹貫貳百文・戻役同六百文・越年役同壹貫貳百文・港役同壹貫貳拾文・女役同六百文但改ノ上十二歳以下ノ男子前書役錢不取立、十三歳ヨリ十四歳迄ハ半役ト唱女」。⁵²⁾

52) 江指兩御役所諸役御收納廉書

53) 東遊記

54) 蝦夷草紙

十 土地に關する税制

後篇九 拜借地冥加錢の項に譲る。

十一 人別・五人組・門松の税制

〔五人組分金〕 「一戸二分五厘・二分・壹分五厘・壹分・五厘ノ五等アリ、一分ハ砂金ニテ、錢六十文ニ當ル。〔五人組判錢〕 「五人組一組ヨリ二十五文」。〔門松〕 「大枝松一本代三百文・小松五向代百五十文右ハ松賣ニ申付五人組二組ニテ大枝松一本又ハ一組ニテ小枝松五向テ申付ラル五人組三四年目ニ一度相當ル位也 正月門松領主居所並由縁アル家中及祈願寺菩提寺氏神社へ配布ノ爲市中百姓及近在へ申付上納」(以上)⁵⁵⁾

後 篇 「前」徳川幕府直轄時代以降明治に至る迄

一 漁業に關する税制

(甲) 漁民に關するもの

イ 鯡(其二) 漁獲税 前濱鯡取船扱方(和入地に) 「文化度(文化六巳年ヨリ) 御料中又々漁事有之候ニ付舊來ノ

通御仕方御取立ニ相成今以同様―右ノ外椎茸役・丸太歩錢・木役・筆墨紙料ノ儀ハ蝦夷地廉へ相認メ候通り」⁵²⁾

尙木札役金免除には「保津知船壹艘宛 御扶持家ノ内鯡取ノ族・町代旅人・名主・小使・番太」があつた。「鯡役

安政三年ヨリ地方御、砂原ヨリ野田追迄本役、此役金貳分、(但持府船壹艘本役ト唱ヒ申候船數ニ應シ取揚鯡四百

收納エ組入ニ相成候 東本役壹艘ノ積リ)、半役(ほつち船) 此役金壹歩錢六百文(但鯡三百束ノ積リ)、半役(ほつち船?) 此役金壹歩(但鯡

貳百束ノ積リ)、半役(ほつち船) 此錢六百文(但鯡百束ノ積リ)、小役此役錢三百文 右者稼人軒別取立、但村役人

ノ分ハ其村ニ不限他村ノ役人ニテモ小役錢免除―外ニ判錢百文宛取立沖ノ口御收納へ組入―但名主頭取小頭其村

55) 村尾元長 維新前町村制度考
56) 江差沖口御役所手續書

會所小役判錢共免除。箱館・尻澤部村・龜田村・有川村・戸切地村・三ツ谷村・富川村・茂邊地村・當別——是者生鮮壹九

但數貳百疋ニ付錢拾貳文宛之積ヲ以村役人ノ者相改役付錢上納致シ候事、但年毎四月中漁事改廻村有之役付致シ

五月中役金致上納來候事。冬、鮒引網冥加金（文政五年）「但網壹投付金貳兩宛毎年八月中上納」有川村・戸切地

富川村・⁵⁸⁾茂邊地村。「蝦夷地鮒取船役金」（蝦夷地に）「御舊領・御料中・御本領同斷」⁵⁹⁾、蝦夷地鮒取小役錢御定「御舊領ノ節

ヨリ——鮒漁濟ノ上鮒取百姓共ヨリ市在共取立御料中同様御復領後町名主ニテ取立沖口へ上納ノ事尤箱館等夷地等

御上知後安政四巳年御料所（幕府直轄地）百姓ノ分ハ右小役錢取立申間敷旨被仰出。——椎茸役——圖合船壹艘六百元・乘

替同四百五拾文・三半船同三百五拾文・保津知船同貳百元（御料中安政六年同様）。丸太夫錢——（舊領）・御料

中ヨリ今以同様。木役——圖合・乘替壹艘壹軒百六拾文・三半船同百廿文・保津知船同八拾文・同船三艘取家壹

軒百六拾文、尤五勝手村ヨリ石崎村迄免除其外役事相勤候者同様御料中・今以同様。筆墨紙料圖合船壹艘錢貳百

文・乘替船同百五拾文・三半船同百文・保津知船同五拾文・磯船同三拾文・右ハ前文小役錢ノ外筆墨紙料ト唱鮒

取ノ者ヨリ取立候儀ハ御復領以來前濱・蝦夷地共漁事盛ニ相成漁業支度ニ取掛リ右百姓家無人ニテ書面認メ候モ

ノモ無之ニ付町役所書役ノモノへ相願免判願等認メ貰候ニ付江差限リニテ右手當ニ爲取候由ノ所天保六未年ヨリ

沖口御收納ニ相成免判願ノ節取立候事。⁵⁹⁾小廻船判錢並冥加金「中遣船・大中遣船（天保十一年ヨリ）判錢百

文宛・百石以下間尺中遣船同百文冥加金一兩一分（天保十二年ヨリ）・百五十石迄間尺中遣船同百文冥加金貳兩

一分・貳百石迄間尺中遣船同百文冥加金貳兩三分、——右ハ中渡立ト唱——最初乗下ノ節壹度限り取立餘ハ——取立不

申小廻立ト唱候分ハ乗下毎（中略）即納。⁵⁹⁾向地仕込金冥加是ハ當地ノ百姓共向地ニ於テ仕込イタシ春中歸帆ノ

上西蝦夷地へ鮒漁業ニ相越候義（天保十二年ヨリ）三月中ヨリ船宿ヨリ取立）——中遣船金五兩、圖合船同三兩。⁵⁹⁾

（其二）鮒取旅人役「年々春中南部・津輕・秋田邊ヨリ鮒取雇ニ罷越候者ハ鮒取當渡役取立五月中出切手相渡

候右之内早春松前へ渡海同所ニ於テ役錢相濟沖ノ口ヨリ切手持參ノ者ハ當渡役不取立、五月中同様出切手相渡、

57) 箱館沖之口御當所御收納廉分帳
58) 丙辰雜綴
59) 江差沖口御役所手續書

右ノ者共夫ヨリ當所・ニ稼居申度ト願候者ハ一別段越年役取立申候尤越年役取立以前ニ歸國ノ者ハ當渡役ノ外湊役(略)戻役取立申候(略)當渡役錢壹貫貳百文・戻役同六百文・越年役同壹貫貳百文・湊役同壹貫拾文・女役同六百文・判錢同百文・(但改ノ上拾二歳以下ノ男子前書役錢不取立拾三歳ヨリ十四歳迄ハ半役ト唱女役取立十五歳ヨリ九役取立申候尤女ハ十四歳迄子供、十五歳ヨリ役錢取立申候⁵⁵⁾)。「春雇船入五月迄歸國ニ春雇役・判錢同六月ヨリ歸國ニ春雇ノ外湊役・判錢 陸入役錢濟五月迄歸國ニ判錢 陸入役錢濟六月ヨリ歸國ニ戻役・判錢右四廉トモ越年相成候節ニ越年役 越年ノ上歸國ニ月數ニ不拘湊役・判錢⁵⁶⁾」。「御舊領・御料中・御本領共(同斷)。⁵⁶⁾」場所々稼方役ニ男一人ニ付壹貫貳百文・女壹人ニ付六百文・男拾一歳ヨリ拾五歳迄六百文・女拾一歳ヨリ拾五歳迄三百文・但男女共拾歳迄役錢免除、場所々支配人通辯・番人共役錢判錢共無之切手相渡候事、(安政四年同斷)⁵⁷⁾」

(其三) **南蠻賣役** 「壹人ニ付役金貳分外椎茸役錢貳百文・メ木代錢百六拾文ツ、文政寅年ヨリ申上ノ上古來ノ通取立一但御料中御本領共沖ノ口御收納ニ御座候所天保六年六月御改革以後御役所御收納」。

□ **鮭取稅** **川秋味冥加** 「金貳兩ツ、茂邊地村、金三兩貳分ツ、錢龜澤村(但汐泊)、右汐泊リ冥加金年々三兩貳分ツ、上納仕來候處近年持續鮭漁皆無同様ニ付文政三辰年願付同年ヨリ午年迄三ヶ年試中金貳兩宛上納ノ積年々十二月月上納⁵⁸⁾」

〔天保九年五月〕「秋味鮭積に場所へ下り候節は六百石積位の船より御土産魚と申役錢三拾貫餘外に又指上米と申四斗入の米五六表沖の口役所へ指出す、都て場所々々へ下り候船は右に準じ役取上げに罷成候由是は國法定の外物なり、但此内三拾貫餘の役錢は役人中への進物也、米も半分役人へ取込候由⁶¹⁾」。「松前領村々鮭漁貢ハ鮭二十本ニテ是ヲ一束ト云ヒ三束ニテ六十本ナリ此六十本ニテ米百石ノ割ナリ此割合ヲ以テ初鮭ノ一番船ハ六百石積ニテ貢四十兩問屋ヨリ役場へ相納候ヨシニ番船ハ三十兩、三番船ハ二十兩ナリ右ノ如ク次第ニ位落ルヨシ鮭ノ元直

60) 江指兩御役所諸役御收納廉書

61) 國友善庵 北陸對問 (天保九年五月)

段景氣下ル故ト云」⁽⁵²⁾

ハ 鱒引網冥加金 (文政五年) 壹投ニ付金四兩宛但小網壹投金二兩・一兩モアリ又至」⁽⁵⁸⁾

ニ 昆布取税 (安政三年ヨリ地方御收納ニ組入ニ相成候處同四) 「上湯ノ川村・下湯ノ川村・志苦村・小安村・釜谷村」右濱ノ分取立方是迄村々判錢無之濱役七駄・家役拾三駄半(一駄ニ付錢八十文)難澁者多ク有之候故改之モノ差略、

一菓子昆布壹駄・但正納四把ニテ壹駄ノ積リ、是者前々正納之處安政二年ヨリ代錢納一壹駄ニ付八百拾二文宛、

一右村々之分名主・年寄・小頭迄ノ分菓子昆布家役免除其外村會所ハ家役斗免除」。(其他の村々は濱役大概四)。(駄・其他は大略以上に準ず)

(以上)⁽⁵³⁾

ホ 其他の漁民税 江差並村々三役 「村々家數増減モ有とて當時尙此税制の存續あり。村々卯時錢」幕府直轄ノ時ハ置米ノ制ナク止宿料定額ヲ以テ御用宿ヲ爲ス家ニ下付セリ、然レトモ實際不足ニテ村入費ヲ以テ補助ス

龜田・上磯・茅部及山越ノ各郡ハ松前藩治ノ時ヨリ置米ナキカ如シ詳ナラス」⁽⁶⁴⁾「村々昆布役錢」年柄ニ寄増減有

之」⁽⁵⁵⁾「松前ノ國法ニテ家數ト言テ家持ノ者ハ昆布二把ノ高ニ相納候事國制ノヨシ、此昆布ハ正品ニテ有不出志苦

昆布ノ其年ノ直段ヲ以代銀ニテ役場へ相納候由其外ニ 本ノマ、百姓夫役ヲ相勤候由也一函館城下ハ海邊在々

ハ運上場ニテハ無之御用昆布ヲ納候へハ其餘ハ勸次第也ト云一御用昆布ハ長崎屋へ賣渡シ其代料ハ諸入用ヲ引去

リ殘金ヲ分ケ取候故運上場ノ分ハ仕入元代金ヲ受取計候コトノ由」⁽⁶⁵⁾

「松前東西邊附候村々餘國ト違ヒ米國不生ノ地ニテ漁事專ラ村々ニテ產物名目ノ外ニ漁致シ候趣ニ候ヘトモ爲其

浦運上ト申儀ハ無之由」⁽⁵⁶⁾場所々々稼方役 稅額男女年齡共餅取旅人入役と同じ。但し「場所々々支配人・通辯

番人共役錢・判錢共無之切手相渡候事。蝦夷地稼方ものもの稼方役壹貫貳百文納濟の上場所より箱館へ立歸尙又其

年中に其場所歟又は外場所え稼方に相越候節者切手書啓遣し候に付其砌は判錢斗り百壹文取立候事。場所々々稼

方役錢の義其年八月晦日迄に場所下りの分は其年の役錢取立九月朔日より十二月晦日迄に場所下之分は其年役錢

62) 松前秘説
63) 箱館沖ノ口御收納廉分帳 (安政六年十一月改)
64) 村尾元長 維新前町村制度考
65) 松前秘説 (天保十年)

免除翌三月晦日迄に場所表より相登り候ものは其年役錢免除四月朔日より相登り候ものは其年役錢取立候事⁶⁶⁾。
 (乙) 場所請負に關するもの

本時代に關する記録に依れば貢税の種類としては「前」徳川幕府直轄時代に運上金・貳分積金⁶⁶⁾(文化十年幕府は東命じ運上金百分の二を年々松前奉行所へ差出さしめ之を以て市中備米(又は市中圍米といふ)を購入し且米倉修理・倉番手當等の費用に充て町年寄之を保管し市在人民の出願により年一割の利子にて貸付せり。然し此拜借米の制は文化十三年官米貸付に變更。然し二分積金)・差荷物代・川運上金・御冥加金等あり「後」松前藩直轄時代に運上金・貳分積金・冥加金・別段御冥加金・鱒場運上・鱒場年納・鱒場釜役金・秋味運上・鹽鮭正納・秋味上乘金・秋味立船冥加・海鼠引・上乘金等あり又「後」徳川幕府直轄時代に御運上金・元運上金・増御運上金・差荷物・別段上納・御冥加金・雜魚運上・上乘金等の名目がある。今此等に關し記録に載せられたるものを要約して表示すれば次の如くである。

時代	年	場所名	運上金	其他の租税
前直轄	文化三(十 ^ナ)一午	下ヨイチ	三百四	金五兩上乘金・金十八兩差荷物代・金六兩二分ト永百文二分積金・金百九十兩右小運上金
幕時	文政元寅一同午	山越内	百卅兩	金二兩二分永百文(此運上金ノ二分積金)
府代	文政三辰一同戌	アブタ	百二兩	山燒ニ付漁事不心任ニ付文政五年ヨリ甲年マテ三ケ年中益運上金ニ被仰付候文政六未年爲御冥加金十兩致上納候
	文政四巳一天保元	イワナキ	四百五	鹽鮭八十疋正納金九兩ト二分方積金
後直	同	右	兩三分	金十五兩差荷物代・金三兩一步ト永二十九文二分積金
松轄	同	右	百卅五兩	金三十五兩鱒場運上
前時	同	右	五百五十	金七兩鱒場年納金三十兩同釜役金
藩代	文政六一天保二	テクヒラ	千	金廿兩是運上金二分方積金・出産物一万石目以上積取ノ節ハ別段御冥加金差上候事
	文政六一十	エトロフ	千	秋味運上、二千石以上ノ節ハ百兩冥加金・五十兩海鼠引・
	文政七一天保元	マシケ	不詳	金廿八兩秋味上乘金
		ル、モツヘ	千五百兩	金三十兩秋味立船冥加、但秋味船三艘元定通リヨリ外一艘相定リノ節ハ御冥加

66) 東西蝦夷地運上調
 東西蝦夷地運上金増運上仕向金其外上納金控書

後 幕 府		直 轄 時 代	
不	詳	不	詳
ア	シ	ア	シ
フ	ラ	フ	ラ
チ	チ	チ	チ
イ	イ	イ	イ
タ	タ	タ	タ
五十五兩	百廿五兩	五十五兩	百廿五兩
金一兩二分永三十一文八分	金七十五兩増運上金	金一兩二分永三十一文八分	金七十五兩増運上金
別段上納	金百兩御冥加金	別段上納	金百兩御冥加金
金廿二兩差荷料・金千九百十二兩増御運上金	金百兩御冥加金	金廿二兩差荷料・金千九百十二兩増御運上金	金百兩御冥加金
元運上金	元運上金	元運上金	元運上金
三百廿兩	三百廿兩	三百廿兩	三百廿兩
元運上金	元運上金	元運上金	元運上金
百卅七兩	百卅七兩	百卅七兩	百卅七兩
元運上金	元運上金	元運上金	元運上金
三百卅兩二	三百卅兩二	三百卅兩二	三百卅兩二
分元運上金	分元運上金	分元運上金	分元運上金
金七兩二分上乘金並鱈場金共増	金七兩二分上乘金並鱈場金共増	金七兩二分上乘金並鱈場金共増	金七兩二分上乘金並鱈場金共増

二 農業に關する税制

〔畑地坪役錢〕 「三百坪ニ付錢九拾文ノ積一右ハ御舊領ノ節ヨリ (略) 御料中・御本共同斷⁵⁰⁾。〔田地役〕 「(文政五年) 新開發ヨリ納但壹反ニ付百八拾文ツ、」⁵⁵⁾ 〔天保九年五月〕 松前近邊田島……年貢等之儀は近年更に取立無之候よし尤年貢の儀は聊の義故取立て不申候と申事に相聞及候其外村々尙又蝦夷地邊にも島は相見候へとも皆無年貢の由に相聞申候⁶²⁾。(以上舊記)

〔文化度は田は地味の厚薄に拘はらず一反歩に付役錢百八十文・如は舊により一反歩に付九十文と定めたり文政四年松前家復領の後田役は之を免じ如役のみ取立てたり安政年度幕府の直轄に至り畑役は舊に依り田は現在反別百十六町九反五畝歩の取米七十一石八斗一升六合に取筒を定め安政三年より三年間定取米納を命じ、同年の貢米は伊勢兩宮、禁裡、日光廟等へ進獻せり同六年右定取年孝明に付檢地をなす筈なりしが人民の嘆願により更に七箇年間延期せり新開地は總て五箇年間の録下なり。〕 (北海道拓殖の進歩)。

三 林業に關する税制

〔卯之助の曾孫倉山由三箱館山植樹は、部分木の制に據り文化五年より同七年に至る間卯之助が植栽せしものにして (略) 杉松成木の後其半數を卯之助の所有となすべき旨官より指令せられたりと⁶⁷⁾。〕 〔四半敷役 (新役) 〕 「文政四年) 家登軒ニ付錢三百文充 但箱館並在々六ヶ場所共軒別ヨリ三百枚充ノ積候得共難濫ノモノハ次第割 此制享和三年既 (小安・戸井・尻岸内・尾札部・茅部) 青木役 之は新現品を以て一敷 (高五尺) ヨリ三敷 (野田追の六場所を往時六ヶ場所と稱す) 中八尺) ヨリ三敷」

67) 北海道廳 (河野常吉) 北海道史第一
68) 丙辰雜綴 村尾元長 維新前町村制度考

位迄町納」。⁶⁵⁾

厚澤部・上ノ國川流薪役並馬付薪役

「御舊領仕來之通取立之尙又右兩山ニ於テ右ノ外伐出馬付ニテ山下仕候分近年猥ニ伐出候ニ付御領中文政三辰年中申立ノ上馬付薪役ト唱厚澤部・上ノ國澤々近村ヘ割合申付數數高五拾數年々取立申候但壹敷五尺八尺ノ積一御舊領・御料中・御本領共同斷」。

フトロ山及セタナイ山冥加金・文政六年ヨリシリベツ山冥加金……出増仕」。⁵⁶⁾ 陪山山師冥加金・袖役金・出

村木賣口錢

北村目名
山榎山山

運上金及別段冥加金

「諸役取立之義ハ古來同斷之事」。⁵⁶⁾ 「(文政三年ヨリ) 運上金ハ千石目ニ付金四拾兩一石目ニ付百四十四才之積一檜杵時々賣立ノ直段ヲ以貳分口錢取立」。⁵⁶⁾ 械・家木十分一」。「免

除一取立候分御料中・御本領共同斷」。⁵⁶⁾ 紫根買入冥加金(紫根は
染料材)「右ハ中歌町(江)」又右衛門ト申者石崎村ヨリ

熊石村マテノ紫根買入渡世ニ仕度爲冥加紫根出高ニ應シ生根千貫目ニ付金三兩ノ割合ヲ以テ上納仕度尤休年ハ

爲冥加錢貳貫文上納申度儀御料中文化七午年十一月新規願ノ上御閉濟右積ヲ以年々取立申候御本領以後同斷」。⁵⁶⁾

炭竈役

(文政五年
四月調査)

「但竈壹枚付炭五拾貫目ツ、右役炭文化六年ヨリ竈壹枚目形五拾貫目付三貫文宛ノ積リテ

以錢納申付一其後文化十年十月ヨリ在々ヨリ願付五拾貫目付貳貫文宛上納ノ積相究候」。「御料中文化三辰年ヨ

リ錢納ニ申付炭竈一箇所ニ付役錢壹貫貳百文取立申候御本領以後同斷取立」。⁵⁶⁾

四 工業に關する税制

諸職人役錢

「職役七百貳拾文一右之通御舊領ノ節ヨリ取立來一文化元年(同斷)」。⁵⁶⁾

鍛冶風廂役錢

「御料ニ

相成文化六己年五月中鍛冶職ノ者願ノ上右拾壹人ノ者へ小風廂壹ヶ所ツ、申付都合貳拾貳ヶ所分己年ヨリ年々取

立申候御本領以來同斷」。⁵⁶⁾ 「鍛冶役錢壹人ニ付壹貫八百文・壹貫貳百文・九百文・貳貫百文・六百文、右鍛冶者本

役三貫文之定ニ候得共稼方ニ高下有之ニ寄リ書面之通取立候事但本御料中者鍛冶職トモ大工頭差配ニ候處天保元

寅年ヨリ鍛冶頭六右衛門差配ニ相成申候毎年職鑑札十月ヨリ十一月中切替之節役錢相納候⁵⁷⁾。〔大工頭冥加金〕

右ハ自他^(本島人)ノ諸職人大工頭取扱ニテ御料中爲冥加金壹兩ヅ、年々上納仕來之通御本領以後同斷⁵⁸⁾。〔合船

役錢〕「古來ヨリ檜山番所ニテ扱候分御料中御復古以來トモ(同斷)―此大中遣船ノ廉御料中文化五辰年五月ヨリ

新規山師ヨリ材木買請大中遣船以下遣船ノ分造役ト唱左之通取立尤此造役ハ御舊領ノ砌無之所取立落ノ趣ヲ以御

領中文化六巳年正月ヨリ新規錢壹貫八百文大中遣船造役・錢八百拾文中遣船造役・錢四百五拾文圖合船造役・錢三

百文^(三半船)造役・同百五十文^(磯船)造役⁵⁹⁾。〔合船役取立之事。辨財船^(幅九尺六寸)百石ニ付金四兩但間尺

石高ノ内貳割引殘リ石數ニテ役金取立候事―大中遣船^(幅八尺六寸ヨ)百石ニ付金貳兩壹步貳朱但間尺石高ノ内

同上。右者天保六年ヨリ船々間尺相改候ニ付地船ノ分辨財船並以下共書面ハ相直シ候得共新規合船有之役金取

立方ノ節者矢張以前仕來之通(取立)―中遣船^(幅七尺六寸)。但シ九尺六寸ヨリ間尺相改申候。圖合船^(幅六尺五寸)

其餘ハ中遣船役金取立―筒船^(幅七尺)全漁船ニ而已相用尤筒船漁仕舞之上板垣取付荷物小廻シ致度旨願出候節ハ

間尺相改外並之通作事役取立―三半船^(幅五尺位)役錢壹貫貳百文右寸尺ヨリ餘計之分ハ筒船之役錢取立、外三

半船似寄候箇替或ハ大持府船造船候節ハ右役錢九百文ヅ、取立、磯船同三百文・同板取替同百五拾文⁵⁷⁾。〔合船

苗木代納^(文政五年)。〔壹本ニ付錢貳拾文ヅ、但百石目ニ付苗木百本ノ積尤百石以上如此⁵⁸⁾。當時沖口役所

苗木代^(安政三年ヨリ)但一本ニ付錢貳拾文ヅ、。是ハ百石以上ノ船合船ノ上最初願石高ニ不拘間尺相改正味石響

者百貳拾五石ニ相成候得者苗木百貳拾五本代取立候事⁵⁹⁾。但百石以上合船ノ儀箱館近山ヲ相除六ヶ場所ノ内山取見分改テ請

過石造船不致⁶⁰⁾。〔合船木代但一艘ニ付錢貳百文宛。是ハ有川村ヨリ木古内村迄ニテ磯船ヨリ圖合船迄合船致シ候

節ハ改濟ノ上取之立候事⁶¹⁾。〔船修繕之役辨財船・大中遣船・中遣船・筒船・圖合船・三半船共繕作事願

ノ筋願濟ノ上新造ノ半役相納候事但當所ニ於テ檜角・杉板等ニテ上廻リ繕ヒノ分ハ役金無之候⁶²⁾。〔橋役^{(橋造}

は異る) 御舊領ノ砌無之處取立落ノ由ニテ御料中文化十四年三月ヨリ新規左之通御本領以後同斷―錢百八拾文ホ

ツウ船・磯船無棚杣取役、同三百文三半船ヨリ大中遣船迄同斷、同三百文三半船ヨリ圖合船迄櫓役、同六百文中遣船ヨリ大中遣船迄同斷、九尺六寸以上ハ間尺改(略)辨財船合船役之割合ヲ以尤正味石七拾石以下ハ矢張大中遣船ト唱辨財合船役、外ニ櫓帆桁杣取役造役共取立、右ノ外乘人數ニ應ジ―新規合船材木積船冥加錢―御料中水主壹人ニ付錢七百文ヅ、取立除金へ組入候御本領以來同斷―右本文ノ内天保六未年六月御改革ニ付素間尺九拾九石迄大中遣船ト唱大天當ノ名目止之。南部・津輕船ハ九拾九石迄天當ト唱秋田ヨリ上方筋ノ船大小ニ不拘辨財ト相唱候。⁵⁹⁾ 造酒冥加金 「中歌町(差) 善兵衛ト申者酒造株元高貳百五拾石御舊領ノ砌酒造―永久酒造渡世仕度爲冥加金七兩ヅ、年々上納仕度旨御料中文化九申年三月中願之通被仰付申年ヨリ取立(略)追々願出當時取立左之通―金七兩中歌町(差) 卯左衛門・同七兩詰木石町(差) 甚五兵衛(天保六年株式返納)・同壹兩三分濁酒上ノ町文七・同壹兩三分同津花町半次郎―但酒造休年ノ節ハ右(略)上納不仕。⁵⁶⁾ 願入壹人付金七兩宛但當時願人ナシ、造酒ノ儀ハ當時無(文政五年)⁵⁸⁾。水車冥加金 「右ハ豊部内町重藏(略)同所川手ニ於テ(略)文政三年ヨリ七ケ年中水車相立渡世ニ仕度壹ケ年爲冥加錢貳貫文上納仕度段同辰四月中願(略)辰年ヨリ年々取立御本領以後天保五年中返納。⁵⁶⁾ 山ノ上町堀井冥加 「(文政五年) 四月調査) 壹ケ年錢拾六貫貳百文^{當時取⁵⁸⁾ 立無⁵⁸⁾」}

五 移出入貨物沖の口稅制

「申傳當所(江差) 辨天嶋繫潤ノ外ケ所ヨリ船々入出ハ勿論便船人上陸乘入並荷揚荷積トモ停止ノ事、今(安政六年) 御同様但荷積ノ儀願出聞濟ノ上ハ外ケ所ヨリ相成候事」⁵⁹⁾ 申傳自他船トモ入津ノ節ハ草速宿問屋手代乘込問屋船主船頭名前船名乘數並乘合人數有無取調積荷物送狀付ハ勿論其外中荷迄モ員數逸々相記沖口役所へ届ニ付下代一人・下役兩人沖改ニ罷出空船ノミニテハ不乘込其他ハ乘込船外ヨリ脚方篤ト致見分手帳へ控船脚石數不相當ノ船ハ能々相改(略) 相當ノ所ニテ書上申付役所帳面へ書留候(略) 天保六年ヨリ船内へ乘込改メ候様被仰出

其他今(安政六年一月)以同様。⁵⁹⁾「貳分口錢每月十日廿日卅日右定日突合翌日上納之事・問屋拾軒・小宿九軒納、是ハ船々入津出帆之節積荷物諸品書上候ニ付右書上ヲ以船改相濟候上役所帳面へ記置毎月定日ニ問屋帳面ト突合船手ヨリ買入高錢之貳分出荷物之分ハ當所相場ヲ以賣渡ノ錢ヨリ貳分相納來候得共嘉永五年正月ヨリ諸口錢三分取立來候處御料ニ相成安政二年正月ヨリ尙又以前之通貳分口錢取立候事但七月八月兩月ハ昆布類賣買ニ付荷物引合置九月十日定日迄月延致シ問屋頭取小宿世話役人兩人ニテ口錢目錄帳算當ノ上ニテ差出候事(安政二年十一月晦日就願申渡)。⁵⁷⁾「三分口錢」是ハ長崎俵物買入昆布煎海鼠干鮑等俵物方へ賣渡候金高ノ内三分口錢毎年十二月相納候事、佐藤半兵衛納(同上)。⁵⁷⁾「箇物貳分口錢(安政六年十一月改)」是ハ當所商人共諸國エ注文ノ諸品船々積來候節問屋下帳エ記シ相届候ニ付船改ノ節箇數相改帳面エ記シ置追テ陸揚ノ上ノ品數相改帳面エ記シ置口錢仕出シ目錄突合候上相納。⁶¹⁾「酒役」一貳斗入貳拾四樽ニ付金壹兩、是ハ以前仕來ノ通(當時兩替六貫八百文)但壹樽ニ付錢貳百八拾三文三分餘ニ相當―但積來候高ノ内三割免除ニ候處天保六年ヨリ用捨無之(略)安政二年正月ヨリ以前之通高之内三割用捨引去リ殘高ニテ役金取立候事。⁵⁷⁾「(安政四年二月十六日御評儀濟)(略)三割用捨致シ―取立來候處今般御改正ニ付外荷物ノ儀正味石丈ケノ口錢取立其餘足シ荷等ノ分ハ免除」。⁵⁷⁾「出油役」一四斗入拾貳挺ニ付金壹兩、是ハ以前仕來ノ通(兩替六貫八百文)但壹挺ニ付五百六拾六文六分餘ニ相當―但場所々々ヨリ積來リ候入高ノ内三割五分免除ノ處天保六年ヨリ三割分用捨無之五分用捨ニ相成且箱館近在並六ヶ場所ノ内ヨリ出油ノ儀ハ地油ト唱ヒ用捨無之處御料ニ相成安政二年正月ヨリ五分ノ外三割用捨(即ち三割)。⁵⁷⁾「一、米入升目ヨリ壹俵ニ付壹升宛用捨引口錢取立候仕來之事。一、松前並江差ヨリ國產荷物積入同所ニ於テ口錢濟書面持參當所エ相廻リ候右荷物積付ノ儘向地エ出帆候節ハ口錢取立不申、外船エ賣渡ニ相成候得者荷主相替リ候ニ付口錢取立。一、當所ニ於テ產物積入出帆致シ候船風筋惡敷出戻リ(略)積荷物ノ内陸揚ゲ(略)願出候得者(略)一端口錢濟ノ品ニ付(略)翌年右船エ積入ニ相成候得バ口錢取立不申―外船エ賣渡(略)節(略)前同様口錢取立。一、諸廻船入津之節積

下リ荷物(略)ノ内木綿並古手類其外ノ品タリトモ當方ニテ賣捌不申積戻(略)趣相斷候得バ右品出帆ノ節元船へ爲積入口錢取立無之仕來ニ候得共天保六年ヨリ木綿類ハ勿論都テノ品津出不相成候尤入船之節木綿類ニ不限積付斷有之品ハ津出不苦。一、東蝦夷地ノ内秋味鮭出產ノ場所々エ積取船差下シ其場所ヨリ江戸表並中湊邊エ直航之分八年々七八月中(略)願書差出願濟ノ上當潤出帆之節役錢取立方ノ儀間尺正味石ニテ乘人數相定蝦夷地初船役取立來候處天保六年ヨリ素間尺ニテ乘人數相定蝦夷地初船役取立口錢ノ儀ハ場所入口錢ノミニテ出口錢ハ無之處御料ニ相成安政三年九月ヨリ出入四分口錢。一、船々當所ニ於テ荷物買積出船改濟出切手相渡風待滯船中(略)積荷物ノ内、外船エ賣渡シ別荷買請仕度旨願出候節ハ聞届買請品ハ勿論賣渡荷物一旦口錢濟ニハ候得共荷主相替リ候ニ付買主ヨリ口錢取立(船中見分改ノ事)。エトロフ場所エ荷物積取船年々兩度宛差下候處同所ハ(略)難海(略)秋更ニ相成登兼候節ハ向地エ落船之儀兼テ願濟ニ相成右船積石送狀高ヲ以出入口錢四分エ貳分相増(略)來候處嘉永五年ヨリ(略)一分相増都合七分取立(略)御料ニ相成安政二年ヨリ出入口錢四分エ貳分相増先々ノ通リ六分口錢取立。一、トカチ場所鱈漁ノ頃烟霧ノ時節ニ相成多分捨リニ相成候趣ニ付鹽鱈ニ製置尙亦秋味鮭並鱈共漁不足ニテ鱈鮭積合直航致度候節ハ其場所持詰合へ差出ル書上ノ内鱈ヨリ貳分方引去鮭エ組入直段高下モ有之候ニ付時相場ヲ以鱈口錢出入四分秋味鮭ノ儀ハ場所入口錢而已貳分取立可申様天保十一年取極候處嘉永五年ヨリ三分口錢取立(略)右廉御料ニ相成安政二年正月ヨリ貳分口錢其後秋味直航ノ分翌辰年九月ヨリ出入口錢四分取立。一、蝦夷地ヨリ直ニ他國エ乘落シ候節ハ見分ノ者差遣シ不申口錢七倍増取立候定ニ候得共七倍ニ相限り候儀無之其時宜ニ寄リ素間尺拾貳倍増口錢取立候儀モ有之候事⁵⁷⁾。

六 商業に關する税制

問屋・小宿冥加金

「右ハ年來問屋家業無滯渡世仕候ニ付問屋拾軒之者ヨリ爲冥加金三拾三兩年々上納仕度小宿

三軒前同斷金三兩文化九申年正月申願ノ上申年ヨリ年々相納候御本領以來同斷〔名前略〕⁵⁶⁾ 旅人宿冥加金 「御領

中旅人宿ノ者共ヨリ冥加金トシテ金五兩ツ、年々相納御本領以後當時五軒天保八四年九月中株式被仰付候御冥

加金三拾兩有之〔名前略〕⁵⁶⁾ 店役〔タナ〕 「御上地ニ相成文化六巳年ヨリ市中坪役錢取立ニ付右ノ店役引上尤佐渡越後店役

納然所百姓トモ坪役錢減少ノ義願上〔略〕 來年ヨリ金五十兩ツ、年々相納文化十三年中小前百姓トモヨリ坪役錢御免ノ義願上

御開濟依之町々身元相應ノ者共ハ與内金割合申付年々割付肝煎名主ヨリ御役所申上ノ上櫃札相渡右與内金差出候百姓以下

ノ者ハ御舊領仕來之通豆腐役・棒役・年歸旅人店役等取立ノ高エ右與内金ヨリ差繼都合金五十兩 年歸旅人店役錢一組合之

ニ仕肝煎・名主ヨリ年々相納候處御本領以後兩三年モ過候テ右與内金相止當時取立ノ廉々右之通〔略〕⁵⁵⁾ 借家其年々ノ人數ニ應シ申付候。市中大商人店役錢〔文政五年四月 調查にては〕 壹軒に付錢四貫三百廿文〔一〕 分限ノ多少見斗

申付候。市中小商人店役錢一右同斷豆腐役一家壹軒ニ付〔略〕 錢六百文〔十二月 文政五年四月 調查も同斷〕 糶役一同錢壹貫

五百文。右年歸旅人店役ノ義年々六月中御收納方足輕壹人町役〔略〕 附立〔略〕 手代役〔文化五年七月 一人一貫二百文〕⁵⁹⁾

丁稚役〔前同斷〕 六百文〔但餘ノ召使ノモノハ旅人ハ旅人役。〕⁵⁹⁾ 夫役〔前同斷〕 借人ト唱地店〔同様差出サス〕⁵⁹⁾ 家役〔店役ト共

ス、市中毎戸ヨリ昆布半駄一十二三駄ヲ收ム、一駄ヲ以テ錢〔略〕 安々冥加金〔古道具商 文政五年 四月調査〕 辰年ヨリ申年迄壹ケ

年金壹兩貳分〔略〕 糶賣冥加金〔右ハ中歌町利兵衛外一人 文化四年ヨリ新規 略〕 冥加錢〔略〕 五十集冥加錢〔イ

ハ生魚販賣〔略〕 壹人ニ付〔略〕 三百文ツ、年々十月中取立〔略〕 文化八年十月願之通被仰渡〔略〕 御料中新規〔略〕

新鯿冥加〔文化元年 六ヶ場所新鯿江戶表ハ廻シ賣却諸入費引去利益ノ〕⁵⁹⁾ 風呂屋冥加金〔文政五

調 壹ケ年金五兩貳分〔略〕 市中百姓ノ内〔略〕 六人有之天保六年九月願之上株式ニ被仰付壹人ニ付〔略〕 貳兩

貳分ツ〔略〕 茶屋冥加金〔賣女 文政五年 四月調査〕 壹ケ年金廿五兩〔略〕 壹軒ニ付金三分ツ、御料中ヨリ新規御本領

以後〔略〕 三十一軒〔略〕 天保七年十月ヨリ株式〔略〕 三十二軒、一軒ニ付金三兩一分ツ〔略〕 抱子役〔文化

月の制なるも〔略〕 淨瑠璃稽古場冥加〔文政五年 四月調査〕 壹ケ年金五兩〔當時取 立ナシ〕 髮結冥加金〔文政五年 四月調査〕 壹ケ年錢

拾五貫文〔略〕 御料中〔略〕 拾人〔略〕 一軒ニ付一貫三百十三文〔略〕 天保六年ヨリ〔略〕 壹人ニ付金壹兩ツ、

拾貳人(略)株式⁵⁶⁾。〔質座冥加金〕「御料以來新規(略)金貳兩」⁵⁶⁾。〔文政五年四月調査〕八軒 一軒ニ付金五兩宛⁵³⁾。
 此外尙芝居冥加・文政當時温泉冥加あるも役額不同なれば之を略す。

七 沖の口船舶に關する税制

第五章劈頭「申傳……」の項参照。

「安政六年御用ノ間ヨリ函館へ御差出ノ書面寫」⁷⁰⁾を「漕役」迄一表にして左に示す。

本穀役

乗合人数	穀役米	役	錢	漕役面	錢加冥	判錢	常燈錢	沖口錢	禮	錢
二人乘	四斗八升	四百六十文		四百	二百四十文	六十文				
三人乘	七斗二升	六百六十文		同	同	同				
四人乘	九斗六升	八百六十文		同	同	同				
五人乘	一石二斗	一貫六十文		同	同	同				
六人乘	二石七斗二升	一貫二百六十文		同	同	同				
七人乘	二石七斗二升	一貫五百八十文		同	同	同				
八人乘	同	同		同	同	同				
九人乘	同	一貫九百八十文		同	同	同				
十人乘	同	同		同	同	同				
十一人乘	同	同		同	同	同				
十二人乘	同	同		同	同	同				
十三人乘	同	二貫四百三十文		同	同	同				
十四人乘	同	同		同	同	同				
十五人乘	同	同		同	同	同				
十六人乘	同	同		同	同	同				

各船一共八百八十八文
 各船一共二百八十二文

70) 港省衙規則

但右船々函館松前へ相越候節ハ役廉ノ内面役禮錢差除取立候事。

半役

- 一、船役 米 百石以下一船ニ付 高二斗四升 高本役廉同斷
- 一、船役 錢
- 一、面役 錢 (同 斷)
- 一、冥加 錢 (同 斷)
- 一、常燈 錢 (同 斷)
- 一、沖口 錢 (同 斷)
- 一、判 錢 (同 斷)

- 一、判 錢 (同 斷) 以上

右は自他船共百石以下に限り材木積の外產物積入他國行之節取立候事。

但城下箱館行之節は產物積入有無に不拘右の内面役差除取立候事。

面役

- 一、面役 錢 高本役廉同斷
- 一、冥加 錢 (同 斷)
- 一、常燈 錢 (同 斷)
- 一、沖口 錢 (同 斷)
- 一、判 錢 (同 斷) 以上

右は御城下箱館にて本役半役の類相濟當所に參り夫より他國行並御城下箱館行共取立候事。

空船面役

- 一、空船面役 水主一人ニ付 錢三百文
- 一、常燈 錢 高本役廉同斷
- 一、沖口 錢 (同 斷)
- 一、判 錢 (同 斷)

右ハ自他大小船入津之節積荷物有無ニ不拘都テ他國行空船出津ノ節取立候事。

半面役

(安政六年十一月調)

天當貳人乘役錢九百文

「出帆之節相納候但南部・津輕兩國ノ船九十九石迄天當船ト相唱ヒ半面役取立地船・圖合三半船筒船申遺船迄ハ向地行半面役取立」

57) 61)

〔貳番役〕 一、米四斗八升・錢六百元外面役錢・冥加錢・判錢・常燈錢・沖口錢・禮錢トモ本役高ノ通。

右ハ六人乗以上ノ船其年兩度入津致シ候テ二番船ト唱ヒ歸帆ノ節取立申候三度目ヨリ本穀役廉取立、五人乗以下ノ船ハ幾度入津致シ候テモ取立方増減無之。

澗 役

一、常 燈 錢
一、沖 口 錢
高本役廉同斷
(同 斷)

右ハ自他船御城下・箱館ヨリ他國行ノ節御城下持船雇船トモ西蝦夷地上下ノ節旅船他領ヨリ他領行ノ節若落船ノ分此廉(澗役)取立候事。

材木積間尺役

「船間尺百石ニ付山砂金四匁五分宛・冥加錢乗組壹人ニ付七百文宛外常燈錢・沖口錢・判錢トモ穀役廉ノ通取立並寸甫積入候節ハ檜ハ壹挺ニ付拾貳文、檜ハ同八文宛冥加錢取立(御料中除金組入ノ所御本料以後御收納エ組入)但他船ノ分ハ間尺役ノ内帆一丈ニ付山砂金壹匁五分(一匁ニ付錢一貫)ツ、用捨申付候事。檜ハ一丈六寸ノ丸太ヲ二ツ割三ツ切ニイタシ此小數六本ヲ一挺ト唱檜寸甫ハ長五六尺差渡一丈五六寸ノ丸太ヲ四ツ割ニイタシ其小數一本ヲ一挺ト唱來」。

〔積合間尺役〕 「材木・產物積合候節ハ荷山高甲乙ニ不拘役米・役錢間尺役トモ半高宛外ニ材木積冥加錢トモ本高ノ通。但產物ノミニテ積荷仕立(略)雜木聊積入分ハ櫓積ト唱穀役廉取立、外木七十二才ニ付拾貳文冥加取立候事」(御料中除金組入ノ御本領以後御收納エ組入)。

〔長崎俵物役〕 「長崎俵物方御雇船私領中穀役錢無之判錢百壹文取立切手成渡來候處御料ニ相成前御料之通穀役錢取立候事(安政三年五月御評議濟)」。

〔蝦夷地初穀役〕 (安政六年十一月改) 穀役壹貫九百廿文筒船・圖合船・中遣船・(是ハ蝦夷地ニ相越候節取立候)

乘人數 二人乗 三人乗 四人乗 五人乗 六人乗

役 錢 二貫八百八十文 四貫三百二十文 五貫七百六十文 七貫二百文 十六貫三百二十文
役 錢 四百二十文 六百文 七百八十文 九百六十文 一貫八十文

人 足 二貫五百文 三貫七百五十文 五 貫 文 六貫二百五十文 六貫五百文

註 以上各種乗船共以上ノ外判錢百八十文常燈錢百二十文を要シ(六人乗のみ百八十文)、丸太代錢五百四十文(三本代)、穀

役は米一升に付錢六十文の割、人足代錢は人足壹人を二百五十文の割とす。

七人乗貳拾六貫四百拾文(内役錢一貫四百四十文・人足七貫七百五十文)・八人乗二十七貫六百六十文(内役錢前同斷・人足九貫文)・九人乗二十九貫二百七十文(内役錢一貫百文・人足十貫二百五十文)・十人乗三十貫五百廿文(役錢前同斷・人足十一貫五百文)・十一人乗三十貫七百七十文(内役錢前同斷・人足十一貫七百五十文)・十二人乗三十二貫廿文(内役錢前同斷・人足十三貫文)・十三人乗三十三貫六百三十文(内役錢二貫百六十文・人足十四貫二百五十文)・十四人乗卅四貫八百八十文(内役錢前同斷・人足十五貫五百文)・十五人乗卅六貫百卅文(内役錢前同斷・人足十六貫七百五十文)・十六人乗卅七貫三百八十文(内役錢前同斷・人足十八貫文)・十七人乗卅八貫六百卅文(内役錢前同斷・人足十九貫二百五十文)

註 右七人乗より十七人乗迄の括弧の外に現はれたる役錢は船役總額を計上せし數にして此内には穀役・丸太役・判錢を含むも總て六人乗の場合と同一なれば一々記載せず。

蝦夷地後船役(前同) 穀役・役錢・常燈錢・判錢(其額初船)ノミ取立。六箇場所(六箇場)之内へ他國船ニテ荷物積取相越候節者幾度相越候共蝦夷地ノ初船錢取立候事但蝦夷地穀役之儀者何レノ場所ニテモ一場所ニ付春一番下り候節者船大小ニ寄定之通初船役取立一但地船ニテ荷別積取候節ハ小廻シト唱ヒ船大小ニ不限判錢百壹文宛取立切手相渡一松前江差兩所ノ船六箇場所ノ内へ相越候節ハ私領仕來ノ通判錢ニテ切手相渡候積安政二年六月何濟⁶⁷⁾。「東蝦夷地產物積取船差下シ其場所漁不足ニテ願濟ノ上兩場所產物積合之節者穀役錢二重ニ取立候事⁶¹⁾」。「諸廻船產物爲積取場所下リ之節請負人共ヨリ右便船ヲ以外場所仕入品積入度旨願出候節ハ承届產物積取候場所之分而已穀役取立仕入荷陸揚之場所ハ依願穀役免除⁶¹⁾」。

〔御用船御産船御用物積入候次第ニ寄船頭自分荷物積合候節ハ御定法並船役賣荷物積合石丈ケニ割下ゲ取立候事⁵⁷⁾。〕

註 一、南部津輕兩所ノ船九十九石迄天當、百石ヨリ辨財ト相唱。

一、秋田ヨリ上方筋ハ大小ニ不拘辨財ト相唱。

一、地船八尺六寸以上九十九石迄ハ他所行・御城下・箱館トモ大中遣・百石以上ハ辨財・蝦夷地通船ノ節ハ二百石迄聞尺中遣ト相唱候事。(以上)⁵⁸⁾

八 旅人に關する税制

旅人役錢 「役錢取立方御舊領・御領中・御本領共左之通(前篇參照)⁶⁰⁾。〔文化八年〕吉岡沖之口取扱方手續「船ニテ罷越候旅人致上陸松前・箱館へ罷越シ候節問屋差添罷出候ニ付所並ニ年齢・名前共一人別ニ相糺シ改濟ノ上一人ニ付役錢一貫二百文宛取立テ松前・江差・箱館・在々へ罷越候者へハ役錢濟ノ切手一人別ニ相渡シ申候尤モ松前へ立ヨリ用事ニテ罷越シ候モノ並難澁ニテ役錢納メ兼候段申立候者ハ爲乘來候船頭相糺相違無之候得バ其ノ譯別紙ニ相認メ松前沖之口御番所へ差向遣、出家・社人・諸士ハ無役ニ付同様取扱申候―當所へ上陸ノ旅人松前並江差・箱館へ罷越候節役錢不納ノ者ハ一人ニ付判錢百文宛取立但旅人役錢相濟候者ハ判錢取立不申―旅人役錢一人ニ付錢一貫二百文宛、外ニ目錢十二文ヅ、(但越年旅人翌年ヨリ六百文ヅ)、外ニ目錢六文ヅ、(同女一人ニ付錢六百文ヅ)、外ニ目錢六文ヅ、(但右同斷三百文ヅ)、外ニ目錢六文ヅ、⁷¹⁾。

商人並方家

- 一、船入三ヶ月ノ内歸國ハ湊役・判錢……一、同四ヶ月ヨリ歸國ハ湊役・辰役・判錢
- 一、陸入役錢濟十日以上歸國ハ辰役・判錢……一、同十日以下歸國ハ判錢
- 一、右四廉共越年ニ相成候節ハ越年役
- 一、越年ノ上歸國月數ニ不拘ハ湊役・判錢
- 一、女ノ儀ハ限月船入陸入並越年役、越年ノ上歸國トモ差別無之半役

71) 松前吉岡沖之口取扱御收納取立方手續並問屋議定書(文化八年及安政二年?の記録を収む)

職

人

- 一、船入三ヶ月ノ内歸國ニ湊役・判錢・職役半方……一同四ヶ月ヨリ歸國ニ湊役・職役・判錢
- 一、陸入役錢濟十日以上歸國ニ職役・判錢……一、同十日以下歸國ニ判錢
- 一、右四廉トモ越年ニ相成候節ニ職役・越年役・湊役・判錢
- 一、越年ノ上三ヶ月迄歸國ニ湊役・判錢……一、同四ヶ月ヨリ歸國湊役・丸職役半方・判錢
- 一、同七ヶ月以上歸國ニ湊役・職役・判錢、但何レモ職役錢ハ内役所取立其他ハ沖ノ口取立

(尙春雇役は鯉取旅人役の項に述べたれば之を略す) (以上)⁵⁶⁾

(判錢百文・職入役錢七百二十文・職人越年役同六百文其他前篇旅人役の通り) (以上)⁵⁹⁾

本時代の旅人役錢大律以上の如くなるも猶次の資參料すべきである。「天保九年五月」⁶⁰⁾「南部・津輕・秋田・出羽・より松前地並に蝦夷地場所々々へ春より秋迄支配人・番人・網引等の類罷越候者又松前・箱館・江差邊のもの場所 越後・越中・能登・加賀邊 持共の請負地の内へ出控に罷越候者其外該國の商人共都て松前蝦夷地へ立入候者よりは松前家にて役錢取る云々 立歸りの分 十日以下逗留の者より壹人に付總壹貫六百文づゝ。十日以上逗留のものどもより同金壹分づつ。松前地より蝦夷地へ罷越候者より同壹貫四百文。同所より同所へ立歸りに參候者より同三百文。松前並に蝦夷地へ越年に罷成候ものより男の分同九百文、同斷女の分六百文。他所人箱館より松前城下・江差へ參候節同三百七十文、領分のものども右同斷同百文づゝ。松前地より南部・津輕都而向地へ罷出節尙又他所人出切の分も同斷同三百文づゝ」⁶²⁾

「旅人入役男一人ニ付一貫二百文、同十五歳以下十一歳迄六百文。女一人ニ付六百文、同十五歳以下十一歳迄三百文。但男女共十歳迄役錢免除。旅人越年役男一人ニ付六百文、同十歳ヨリ十五歳迄三百文、女一人ニ付三百文 同十一歳ヨリ十五歳迄百五十文。但男女共十歳迄役錢免除、是ハ年々十月ヨリ取立鑑札切替相渡候尤十月朔日ヨリ十二月中途入人ノ分入役錢取立越年役ハ免除之事(安政四年六月廿一日ヨリ旅人入役免除、越年役同斷)⁶¹⁾」(入役錢・本國役錢・越年役錢を三役と稱す) (尙「鯉取旅人役」の項參照の事) 掃除冥加⁷²⁾ 前幕⁷²⁾ 旅人一人五十錢

九 土地に關する稅制

72) 村尾元長 維新前町村制度考

〔上之町新地取立冥加金〕「右ハ江差上ノ町ノ儀御舊領之榎野原ニ有之候所御料中切開被仰付町並ニ被成下追々家數嵩依テ右新地取立爲冥加金五兩ヅ、御料中取立申候御本領以後同斷取立申候」。

拜借地冥加錢 「右ハ御地面ノ内御不用ノ處拜借仕候者共詰木石町(江差)久右衛門於同所坪數九坪拜借冥加錢六十字同町吉兵衛坪數三十二坪冥加錢一貫二百文御舊領仕來ニテ取立申候文化十年御領中詰木石町武兵衛同所坪數六拾九坪拜借冥加錢壹貫五百文年々取立申候處追々類例願出當時取立左之通——錢六百元、同三百文、同三百文、同六百元、同六百元、同三百文、同壹貫貳百元、同壹貫八百文、同壹貫貳百元、同同、同同、(各名前省略)」。

十 人別・五人組・門松の税制

〔人別錢〕「分頭十二文トス創始年代不詳享和年。〔五人組分金〕「前代同斷」。〔五人組判錢〕「同上」。〔門松役〕「寺社布ヲ廢シ代金納シ」(以上)72)。

結 言

以上の如くにして蝦夷に對しては「惣じて蝦夷地より年貢と申は無之」(寶永七年)、「領内の土人よりは年貢をとらず」(寛政二年)とも云ひて無税を以て方針としたるも和人に對しては一般に徵税するを方針として「前」松前藩時代より明治維新に至つたものであるが其基礎は大略「前」松前藩の末期頃迄に出來上つたものと觀て太過無いであらう。

(昭和九年六月三十日)